

折居彪二郎資料「樺太鳥類ニ就テ (1926)」 I

説田 健一・齊藤 郁子¹

“The birds in Sakhalin (1926)”

by the professional hunter, Hyojiro Orii I

Ken-ichi SETSUDA, Ikuko SAITO

1. 折居彪二郎資料「樺太鳥類ニ就テ(1926)」の概要

折居彪二郎(1883-1970)は、明治のおわりから昭和のはじめにかけて活躍した鳥獣採集家である。折居は主に山階芳麿や黒田長禮といった研究者の依頼を受けて、千島、樺太、朝鮮、満州、琉球列島、台湾、ミクロネシアなどで鳥獣の採集を行い、これらの調査で訪れた土地のことや採集した鳥獣について日誌に記録している(苫小牧市立中央図書館, 1998, 1999)。これまでに、「琉球及び大隈列島採集日誌(1921)」(齊藤・嵩原, 2003)、「千島採集日誌(1928)」(揚妻, 2005)、「パラオ、ヤップ、ミクロネシア諸島の鳥類について(1930)」(大畑・鷲田, 2007)、「台湾採集日誌(1932)」(説田・齊藤・鷲田, 2006)、「満州採集日誌(1935)」(説田・齊藤, 2007)、「琉球採集日誌(1936)」(齊藤・嵩原, 2004)が活字化されている。

本稿は、苫小牧市中央図書館所蔵の日誌「樺太鳥類ニ就テ(資料番号1040270124)」を活字化したものである。この日誌は、1926年から1927年にかけて、鳥類研究者、山階芳麿の依頼で樺太南部を調査したときのもので、20cm×16cmの大学ノートに横書きで記されている。折居は、1926年3月31日に苫小牧を出発し、4月2日に真岡(現在のホルムスク)に入港、翌年の3月27日まで樺太南部で鳥獣を採集し、3月31日に苫小牧の自宅に帰着している。日誌には、樺太南部の地勢や鳥獣の生態のほか、極寒地での調査の苦労や宿の火災に巻き込まれたときの様子も生々しく記されている。

依頼主の山階は、折居から入手した標本に基づき、三篇の論文を発表した(山階, 1927a, b, c)。これらの標本の多くは、財団法人山階鳥類研究所に保管されているが、一部は岐阜県博物館の柳原要二コレクションにも保管されている(説田・時田, 2001; 説田・齊藤, 2003)。

なお、紙面の都合で二部に分けて、掲載する。

2. 凡例

活字化にさいしては、次のようにした。

・旧漢字は原則として常用漢字に改めた。

- ・判読不能の文字は「□」とした。また、『大漢和辞典』(諸橋轍次著 大修館書店)に無い文字は「ニ」とした。
- ・誤りと思われる文字もそのまま起し、「ママ」とルビを付した。補足が必要な部分は[]内に推測される文字を示した。また、文意が通るように補足した部分も[]内に示した。
- ・原資料の欄外にある書き込みは{ }で括り示した。
- ・原資料で見せ消しにしている部分は、文字が判読できるものは二重線を引いて示し、文字が判読できないものは「●」で示した。
- ・明らかに空白としている部分はそのまま空白とした。
- ・句読点を適宜補った。なお、原資料の句読点は、より適当であると思われるものに訂正した部分もある。
- ・記載されている鳥名は、現在使われている和名と異なる場合もあるが、原則として原資料に忠実に文字を起こした。
- ・一部に現代の感覚では不適切と思われる表現も見られるが、原資料の学術的価値を考慮しそのまま翻刻した。

3. 原文

宮城県本吉郡

志津川町

字上保呂毛

遠藤亀三郎

現住所東浦松尾造材部

{樺太鳥獣採集ニ就テ}

大正拾四年秋季東京市外中渋谷侯爵山階芳麿氏ヨリ樺太鳥類採集ニ就テ交渉才受ケ同年中二大約法々[方法]及其他ノ必要事項才約束決定セリ。諸般ノ用意才了ヘ出発。胆振国沼ノ端植苗村才出発シタルハ大正拾五年参月卅一日。小樽ヨリ直[真]岡直航ノ京域[城?]丸ト云小形船二便乗ス。四月一日正午出帆し折柄東南風強ク浪高し。真岡二着セシハ二日正午。茲ニ荷役オシテ出発。野田才経泊居ニ着セシハ三日前九時半。直ニ上陸榭屋旅館ニ老泊

1 財団法人沖縄県文化振興会沖縄県公文書館嘱託員

ス。地方ノ地製〔勢〕ニ就テ種々照会セシモ此泊●居町ハ居住ニハ便ナルモ採集上ニハ山急坂オナシ面白カラズ故ニ名寄ニ決定セリ。

泊居以南ノ地勢

鳥類標本採集上ニ於ケル地勢ハ真岡以南ハ大抵〔抵〕海岸ヨリ急涯オナシ野原ハ少ク且ツ数里奥ニ行カザレバ樹木ハ無ク大抵〔抵〕伐材シ●サレタルガ如ク処々ニ松林少々位見受ルモ斯克ノ如キ地形ニテハ到底〔底〕満足ノ採集ハ不可能ト考ラル。

泊居ト真岡間ハ処々ニ林オ見ルモ是●亦タ大森林ト云フ程ノ者ナラズ。尤モ是等海岸沿ニハ林少キモ奥ノ方ハパルプノ原木ハ未タ多量ノ見込ラシクパルプ会社ハ大仕掛ノ者泊居町ニ在リ。奥地六里程ニシテ炭山在リテ軽便鉄道オ通ス名寄村奥ニ二里程余ニテ炭山ト交通スルオ得可ク。

然し乍ラ農地ハ此附近ニハ極テ少シ

名寄ニ向フ

四月四日風雪オ冒シテ泊居ノ北方四里程ノ処ナル名寄村ニ向フ。未タ積雪深クシテ吹雪溜リノ処ハ四五尺モ在リ。余等ハ干潮オ利用シテ海岸オ沿テ進行ス。時々脚部迄モ海水ニ没シ乍ラ少量ノ手荷オ以テ進ム。漸クニシテ午後四時半名寄館ト云フニ投宿シタルモ待遇甚ダ悪シク室ハ暗里〔黒〕ニシテ到底〔底〕解剖等ノ行ハ難キヨリ直ニ交渉シタルモ他ニ空室多ク在ルニモ不系〔係〕約束在リトカ申居リ。ニ〔翌〕日渡部旅館ト云フニ引移リヌ。

此頃処々道路ハ雪消テ露出シ居リ亦吹雪溜リハ猶小山ノ如クシテ馬車オ通シ難ク亦馬轎モ行ク能ハス。荷物ノ運搬ニハ甚タシク困リ果タリ。無論馬一車買切ラバ僅カ四里程ノ処、拾五円位ハ要スル事幸ニモニ〔翌〕日名寄ノ帰り馬車オ見出し泊居ニ残シタル荷物全部オ六日ニ取り寄セルオ得タリ。六日正午小シク前ヨリ出獵シ見タリ。

名寄村ノ地形

此ノ部落ハ佳ナリ以前ヨリ農耕地トシテ知ラレタル者ニテ農家ハ名寄川ノ曲折シテ流ル、沿岸柳ニ〔榛〕ノニ〔雑〕林中ニ散見シ得ラル。後來樹木オ要スル物_ヲ在ルオ考慮シテ此附近ノ伐木オ許下〔可〕セズ保護オ加ヘ居ル物ラシク附近ニハ佳ナリノ密林在リテ少シノニ〔雑〕木モ河岸ニ見ラル。村落ハ河口ニ在リテ百戸ニ滿タズ。半農半漁ナリ。

南方ハ海岸近クハ草原ノ小丘ニシテ東方ニハ皆林オ有シ東方ハ即チ河ノ上流ニ至ル兩沿ノ山々ニハ森林オナシテ数里ニ渉リ松樹林在リテ六里位ハ兎ニ角交通シ得ル程ノ山道在リ。奥ノ方山深キ処トナカイ、及貂、麝香鹿、狐等モ時々見受ル由亦小夷馳ハ少キモ居ル由ニテ大山猫ハ少キ由ナル。リスハ多数ナリ。

東北方ハ久春内ニ至ル参里余ニシテ海岸近クハ林少ク草原ノ丘陵ナリ。草原ハ佳ナリ廣々トシテ潜入類及其他ノ小鳥オ産スルラしく目下白皚々一面ノ積雪ニ覆ハル。半里余東方ニ進メバ大ナル林在リテ東方ニ密ナリ。

河沿ハ河オ中心トシテタモ棒〔榛〕、柳等ノ小林在リテ平地ニハ農家数里ノ奥迄処々ニ見ラル。河オ中心南北ニ山オナシ数里ニ渉リテ松樹林在リテ夏季ハ相当ニ小鳥オ見ラルハナラント思ハル。

交通

夏季ハ自動車オ通シ泊居、久春内間定期在リ。小包郵便ハ冬季ニ至レハ久春内以北ハ全ク取扱ズ。

四月六日

本日北方ノ松林オ週ル可キ〔ク〕趣〔赴〕キシニ周囲余リニ大ニシテ半日ニハ了〔終〕ノ見込立タズシテ中途ヨリ引返セリ。白皚々タル中ニ大古ノ静寂其物ノ如キ北方ノ森林ハ寒ニ物静カナリ。余ハ西方眼オ配リテ進行セシモ多数ノ鳥オ見ス。二時間程ニテ漸ク樹梢高ク止リ居ル真ヒワオ見其ヨリ二時程進行シテト在ル沢辺ニ云タルニ木鼠ノ足跡多数ニ見タリ。余ハ附近ニ若シヤ小鳥ヤ在ルト奇音オ発セシテ林中ヨリ真ヒワニ羽及北日柄ニ羽出来リシ故直ニ此ノ四羽オ射獲セリ。其ヨリ猶進行シテ木回ニ会ヘ♂♀ニ羽オ得タリ。北海道辺ノ者ヨリハ白シ嘴ハ多少細形ラシク思ハル。此日赤ウソ一番オ見テ♀ノ方オ逸セリ。

真ヒワニ就テ

目下寒気強ク時々風雪在ルニモ不係♀ノ服〔腹〕皮部ハ既ニ一般鳥類生殖季ニ入ル時ニ見ル如ク厚クシテ強ク然モ羽毛無キ様ニナリテ把卵ニ便スル様ニナリ居レリ。♂ノ睪丸ハ長サ五ミリm、在リテ最近ニ營巢スル者ノ如シ。ウソノ睪丸ハ半白半褐色ニテ未タ發育セス。

式ミリストルオ越ズ。

北日柄

ハ松林中ニ相当数オ見ル。翼ノ雨覆（大小）ノ先端ハ白ニ〔斑〕オナシテ下モ二列ノ大白ニ〔斑〕ノ如ク見エ其他肩羽ニモ数個ノ小白ニ〔斑〕在テ本道産ニ比シ小形ナリ。後頭部ノ長白ニ〔斑〕雪白ニテ著ナリ。尾長ハ一寸四分（目下）位ニテ小形ナリ。

白服〔腹〕木廻〔回〕 spNo4

ハ北海道産ニ比シ眉ニ〔斑〕明瞭ニシテ白色部ハ一増判明ナリ。服〔腹〕部ハ殊ニ白色ニシテ♂ハ下尾筒栗色ニテ♀ハ脇及下尾筒ハ淡黄栗色ナリ。嘴ハ細形ト思ハル。

Iris clove Brown Feet Dark yellow Bill slato Black

Wi二寸五分 TL、一寸三分位 Feet六分 B、五分
gl 四寸五分 Wa、四匁五分自至五匁
前額ノ白色部ハ明瞭ニテ巾一分位及老分五厘ニ渉ル者モ
在リ、♂ノ下尾筒ハ濃栗seal chestノ間ノ者トHazel
色ト在リ。亦♀ニ於テハcinnamon Rufous色ノ淡キ者多
シ。下腹[腹]ハ白色ノ者トBuff色ト在リ。

四月七日

吹雪甚シク到底[底]出獵し兼テ遂ニ休ム。

四月八日

本日名寄河沿ノ樹林ニ沿ヘテ進行ス。茲ニハカバニ[榛]柳
タモ等ノ稚林密茂シ中ニハ処々ニ大老木在リテ諸鳥ノ渡
ル途ラシク考ラル。是ヨリ数里ノ間開懇[壘]地住宅[宅]在
リテ林モ時々中絶シ乍ラモ上流ニ続キ居レリ。

小赤ゲラ spNo.6.

此種ハ少カラント思ヘ最初で遠方迄追撃オ為シ漸ク獲タ
ルモ後相当ニ豊富ニ産スルオ知レリ。鳴キ方ハ小啄木ト
全ク異リ居リテ赤ケラニ近キ音ナルモ赤ケラノ如ク大声
ナラス。 I Dragon Blood Red F olive gray Bill, slate
Wi 三寸一分 TL 二寸二分 F四分 B、六分
gl、五寸三分位在リ 量五匁五、六匁前後迄ナリ六匁五
分ノ者モ在リ頭(♂)ノ赤色ハ小部分ナリ。

北赤ケラ spNo.7.

ハ前額部及其他ノ白色部ハ雪白ナリ此地方ニ多シ。枯林
ニハ多ク棲ムモ主トシテ河岸ノ枯老木ニ穴オ掘リ産卵ス
ル者ノ如ク。

河鳥ハ河水清ク流レ相当早キ処ニ時々見受ラル

樺太大赤ケラ △9 spNo.9.

此種ハ一般大赤ケラニ比シ体[体]格ハ一致スレトモ翼ノ
ニ[斑]点ハ白ニ[斑]多ク亦尾羽ニ於ケルニ[斑]点ノ所在
ハ異レリ。即チ翼ノ初列風切ハ外辨ニ三ケ内辨ニケノ白
ニ[斑]在。

第二ハ外辨五ケ内辨三ケ

第三初列風切ハ外辨七ケ内辨二四ケノ白ニ[斑]在リ。

第四風切ハ外辨二七ケ内辨二四ケノ白ニ[斑]在リ。

第五羽ハ外辨二七ケ内辨五ケノ白ニ[斑]在リ。

三列風切ノ白ニ[斑]ハ明白ニシテ且ツ大ナリ。

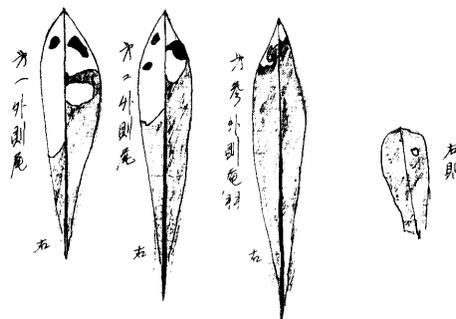
翼ノニ[斑]点ノ数ハ基部ヨリノ算定セリ。

尾羽外側ノ者第一長サ二寸七分在リ。

" 第二" 三寸一分

" 第三" 三寸三分

大雨覆ノ内辨ニ白ニ[斑]一ケ在リ。



脇ニハ從[縦] 二[斑]羽軸黒[斑]在リテ地色バフ色オ帯
ブルモ腮喉胸ハ白色ナリ。大赤ケラヨリハ紅色濃シ。

ヘンソソ柄 spNo.10

最モ普通ニテ至ル処見出サル。

Iris seal Brown Feet gray Bill Black

Wing 二寸一分 TL一寸九分 F 五分三 B、三分二厘
gl、四寸二分 量 三匁三分位

8 th April

丁馬 spNo.11.

Wi 四寸五分 TL三寸二 F老寸二 B、六分五厘

河原ニ見出サルモ甚タ少カリシ。

gl 八寸 量 十七匁 肥大ナラサリシ。

北木啄木 △ spNo.12.

Iris Hazel Feet gray Bill slate

Wi二寸八分半 TL一寸八分 F四分八厘 B、四分五厘

gl四寸二分 五匁六分 六匁五分位迄ナリ。

小カル可キオ予想シ居リシニ相当数オ見出サル。此ノ
種ハ尾等左程黄汚染シ居ラズ先端ニ近ク黄色 (cleam
yellow) 位ノ程度ニシテ表面ハ白色ニ近ク其他顔ノ灰色
部モ淡色ナリ即チ (北木啄木) ト仮リニ称ス。目下大低
[抵]ハ♂♀連行ス。

9th April 1926

此日東方ニ進ム。寒氣甚シク余ハ顔面凍傷シタリ。縞柄
長ニ羽オ見タルモ採集方オ見合セリ。

No.31, ♀ 樺太夷雷鳥 sp No.13

本種ハ松林ノ至ル処見出サル、モ昔日ノ如ク多数ナラス。
目今民家ニハ大低[抵]村田銃位オ処[所]有シ居リ。免状
ノ有無ニ不関見当リ次第二此ノ貴重ナル獵鳥オ射獲シ居
ルハ惜シキ事ト思ハル。脊[背]部ノ栗色ノ部分ハ黄栗色オ
帯ビ美ナリ。白ニ[斑]ハ夙ント純白ニ近ク顔ル白味オ多く
散布セルヤニ思ハル。頸部ノ白斜條ハ頗ル明瞭ナリ。

10 th April

此日も東方面ノ河ニ沿テニ[雜]木林オ上ル。渡樺以来初メ

テ樺太大モズオ見しモ遂ニ不獲。実ニ惜シキ事セリ。
本嶋ニ於テモ甚タ少キ者ノ如シ。

樺太深山カケス

Iris Feet smoke gray Bill Black

Wi 四寸八分 TL 五寸二分 F 壹寸参分 B 壹寸一分
gl 壹尺 〇 六分 量 参十五匁位在リ

深山カケスニ一致スルモ頭部ノ赫黄色ハ淡クシテ其黒ニ
[斑]ハ細形ニシテ少し相当数居ルが如シ。

11 th April 1926

No.49 ヲ[ユ]キ類白 spNo.15

Iris clove brown Feet slate/cole Bill Black

Wi 三寸八分 TL 二寸四分 F 七分 B 四分五厘

Gl 六寸参分 Wa 十五匁

本種ハ稀ニ見ル処ニシテ此標本ハ雪白色ナリ。一体ニ大
形ナリ。廣キ野原等ニ見出サル。

本日、熊ケラオ見シモ遂ニ逸セリ。松ノ密林中ニテ次ノ
[?]ノ小柄オ得タリ。一体ニ尾ハ短ク不可思議ノ種ニシ
テ其ノ何レカ敵[適]名ナルヤ樺太小柄[?]。

No.51 ♀ 小柄 spNo.16

Iris clove Brown Feet gray Bill slate

W 二寸一分五厘 TL 一寸九分 F 五分四厘 B 三分四厘
gl 四寸四 wa 三匁五分

即チ尾ハ二寸一三分位ナラバ嘴太小柄ナルモ亦脊[背]部
淡色ナル故普通小柄ナラス[?]ノ者ナリ。

四月十一日ト云フニ尚積雪ハ林中ニ於テ四尺位モ在リテ
没脚スル事甚シクスキーニ非レバ進行不可能ナリ。吹溜
リノ深キ処ハ七尺尺ニ及フ。然レトモ一陽來覆シ春風吹
ケバ急チニシテ濁流ト化シ一面ニ平地ハ沼ト化ス由然シ
乍ラ間モ無ク乾燥シテ春草ノ発芽オ見ルニ至レハ樹葉ノ
青録[緑?]ト共ニ極楽ト化、冬季ノ長キ間オ忘ルガ如シ。

名寄村ヨリ久春内ニ至ル海岸沿い二十間程ノ涯オ上レバ
傾斜少ク草原廣ク久春内近クハ平原ト云フオ得可ク諸鳥
ノ来ル者多キ由ナリ。

大正拾五年四月拾貳日

本日海岸オ久春内方面出掛ケタルモ未タ積雪多クシテ鳥
類オ見ス。唯(白セキレ)ニ羽オ得タルノミナリ。久春
内迄ハ森林ト云フ程ノ林無し。抛テ半里程東方ナル大密

ノ小沢在ル処ニ向フ。雪深クシテ進行困難オ極ム。
(赤尾カケス)ニ羽オ奥深キ林中ニテ得タリ。亦行ク事
漸クニシテ樺太深山カケスオ得タリ。如何ニシテモ本嶋
ノ此種ハ頭部ノ羽毛ハニ[斑]点小ニシテ且つ区域[狭]キ
様ニ思ハル。次ノ南方ノ深キ沢ノ奥ニテ(キク戴オ)見
タルモ遂ニ逸セリ。西海岸ハ夙テ西風吹ケバ割合ニ温暖
ナリ。是ハ東海岸未タ結氷シ居ル為五月中旬頃ニ至ルモ
猶東風ハ寒キ由ナリ。

四月拾参日

東方高地(四里ノ地点)ニ趣[赴]ク。茲ニハ多数ノ樺ノ
大樹茂リ居リ。松林数里ニ連ル処目下茲モ伐材中ナリ。

(熊ゲラ)オ得テ亦茲ニテ(三指ケラ)オ得タリ。(小
類赤)ナランカ今朝雪ノ消シ畑ヨリ三羽程飛去ルニ会
追シモ藪中ニ入りテ逸セリ。尚椋鳥ラシキ者一羽河原ノ樺
樹高く居リタルモ失中し藪中ニ入りテ遂ニ見失ヘタリ。
真鴨ニ羽ノ見タリ。

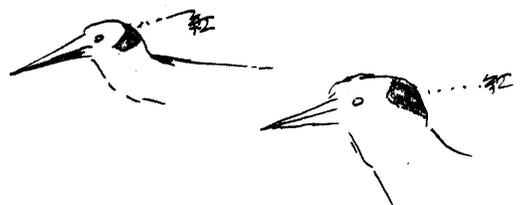
四月拾四日

南方一里程ノ東方ニ向ヘタル林中ノ澤ニ向フ。行ク程積
雪深ク歩行困難セリ。夷鼯カ又ハ小夷鼯ノ足跡多数ニ発
見サル。亦処々ニ貂ノ跡ラシキ者オ見タリ。消雪オ待テ
早速トラップオ置ク可ク考フ。

本日ハ格別変リタル鳥オ見サリシモ(河原ヒワ)ニ回程
二三羽づ、飛翔スルオ見タリ。

大森中ニ実ニ大ナル音●響オ立タテ啄木セシ声音実ニ十
数町ニ声[聞]ユル位然シ乍ラ姿オ見ザリシ故(木タタキ)
[?]或ハ熊ケラ[?]ハ分明セズ。余ハ考フ是迄遂ニ熊ケ
ラハ斯クノ如キ連続的復速ニ木オ啄クオ聞カズ。多分ハ
木タハキナラン[?]。

熊ケラノ♀ノ頭部ノ赤紅色ハ北海道産ハ形ニ横ニ赤紅ニ
[斑]オナスモ樺太産ニ在リテハ図ノ如ク中央条八分位ノ
巾ニ長サ一寸三分位ノ約三角形オナシ後方ニ向テ此ノ紅
色部ハ尖レリ。色ノ其部ハ後頭部ナリ。



四月十五日

本日モ尚色彩手帖来ラズ。樺太ハ全ク不便ノ処ナルオ思ハシム。本日マテ既二十日トナル。

本日河沿北方奥地ニ向フ

(赤マシコ) オニ三羽ツヽ見タリ冬季ハ多数群集し居ル事在リトカ聞タリ。

(四拾柄) 才得タリ。

色彩ハ濃色ニテ第三列風切羽ハ黒色ニ近ク巾広キ白縁オ有し頸脊[背]部ノ黄緑[緑]色ハ濃色ナリ。

(柄長ハ)

普通ノ種類ナルガ如ク別ニ特異ノ点オ見出し能ハス。運良ク小赤ケラハ時々出会シテ是才得テ既ニ本日ニテ満数近クナレリ。

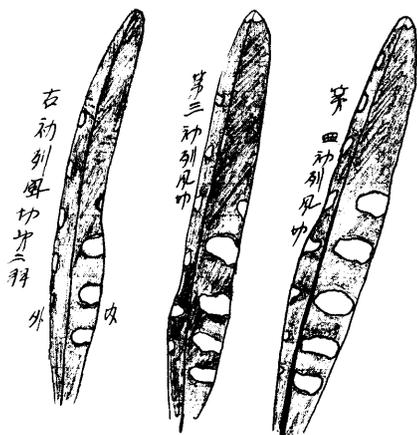
P.T. altaieusニ就テ (三指ケラ)

No.65、♂ gl, 七寸七分 Wa, 式拾寸在リ。

翼長126m[m]在リテ脇ハ黒色軸ニ[斑]在リテ一見黒味勝ナリ。尾羽ハ拾枚ニテ中央ノ三対ハ黒色ニテ外側ノ二対ハ図ノ如シ。此ノ図ノ如ク先端ニ近キ小黑ニ[斑]ハ或ハ一ケ又ハ内外ノ辨ニモ在ル者モ有リ。



{右翼ノ脊上ヨリ}



大雨覆ノ先端ニ小計口ノ白点一ケツヽ在リ。

樺太三指ケラ (Picoides tridaetylus sakhalinensis) ハ体則ノ小從[縦]ニ[斑]点少ク一般ニ淡色ニ見エ其翼長ハ120m[m]自至122mmナルニ□、P.T. altaieusハ実ニ126以上ノ長サオ有ス。尚多数ノ標本ニ拠テ精細ニ記録ス可シ。

{???

樺太産ノ深山カケスニ就テ

全長壹尺〇五分 七八分希ニ壹尺壹寸達ル者モ在。

重量參拾ニ勾位ヨリ五六勾ノ間ニ在リ。

嘴ハ其部ヨリ壹寸一分ニ達スルモ大抵[抵]壹寸〇五[厘]位ナリ。口角ヨ嘴ノ先端迄ハ壹寸壹分在リ。

翼長五寸五六分

跗蹠壹寸二分

尾長五寸二分位

頭部ノニ[斑]点ノ処在ノ長サハ壹寸五分才越ズ(鼻先才算セズ)。腰ノ白色部ハ筒(尾)ノ先端迄壹寸七分位♂腰ノ白色部ハ尾筒ノ先端迄壹寸三四分才越エズ♀頬ノ黒色部ノ大サハ巾四五分長サ八分♂ハ長サ同シキモ少シク頬狭[狭]し。

♂ノ初列風切第拾羽ハ先端近ク迄外辨ニ(ルリ)色ノニ[斑]点散在ス。九羽ニモ不明瞭ナルルリ色縁在リ。

初列、二列、風切ノ基部共々外辨ニルリ色ニ[斑]在リ。小翼羽、及初列及雨覆ハルリ色地ニ黒紺色色ノニ[斑]横條在リテ此ルリ色ノ巾ハ小翼羽ニ在リテハ式ミリ半、紺黒横條ハ壹ミリ半大雨覆ニ於ケルルリ色部ハ參ミリヨリ參半、紺横條ハ二ミリ位

初列風切第一羽ハ黒色ニテ式寸二分 縁無シ。

” ” 第二羽ハ基部ヨリ參寸四分外縁灰白

” ” 第參風切羽ハ四寸二分

” ” 第四” ” ” 四寸四分、第五羽ト同長ナリ。

{深山カケス乃記事}

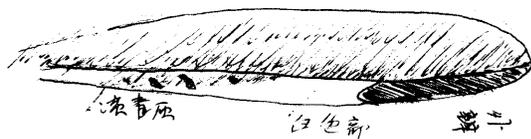
以下第八羽迄ハ漸次ニ灰白色ヨリ灰鼠色ニ変リ多少ノルリ色才帶フ。

次列風切ハ第一ヨリ五羽迄ハ外辨中央白色ノ長ニ[斑]在リテ此ヨリ先端ハ

第一羽ハ壹寸二分 第二ハ壹寸三分五厘

第三羽ハ壹寸四分 第四ハ壹寸四分七厘

第五羽ハ壹寸五分 各白ニ[斑]ノ長サハ第一羽ハ 壹寸八分 第五羽ノ壹寸ニ至ル迄漸次短クナレリ。



上図ハ次列風切第一羽

次列雨覆ノルリニ[斑]ハ丁度白ニ[斑]在ル第五羽(次列風切ノ)ニ於テ終ル以下ノ三羽ハ共々黒色ナリ。

第三列風切羽ハ二枚丈ケ赤栗色ノニ[斑]在リ。

次列風切ノ外辨基部ノルリニ[斑]ハ第六羽ニテ終ル。

四月拾七日

午前中風雨ナリシ故十時頃晴ルヲ待テ出ス南方ノ林中ニ於テ(紅服[腹]ウソ)オ見タリ。

{大モズ 北青地[?] 木走 樺太ゲラ[?] 樺太ワシ}

四月拾八日

本日東方高地白樺ノ大樹林ニ趣[赴]ク。丁度東風強ク甚タ鳥少ク不獵ニテ帰ル。往路北青地[?]オ見テ逸シ大モズノ南方ニ渡行スルオ見ル。此種ハ多分 Armal Armurland ヨリ本嶋ニ渡来シテ漸次南下スル者ト思ハル。其他北海道ニ渡来セスシテ本嶋ニ見ラルハ鳥類ハ夙テ此ノ(アームル)地方オ経テ渡来シ亦秋季ニハ北行シテ最モ大陸近キ方面ヨリ渡リ南方ニ去ル者ト思ハル。

鳩四羽相遇シテ空高く北行スルオ見タリ。是ハ我北海道ヨリセル者ナル可ク。木走り東方大樹林ノ枯木ニ居ルオ見タルモ遂ニ獲ル能クサリシハ惜シ。帰路、服[腹]部赤カラザル啄木鳥(大赤ケラノ大サノ者)オ見テ追ヘタルモ遂ニ逸セルハ是亦惜シ。

熊ケラニ一射シタルモ是亦失中セリ。

四月十九日

本日モ東方河沿ニ出獵ス。変リシ鳥オ見ス。風強クシテ渡来ノ鳥ニ不便ナラン。小鳥打ノ丸オ込メ居リシニ折悪シ頭上ニ十間位ノ高二飛来セル樺太鷺在リ。大ニ急キシモ大ナル弾丸オ取り出ス事不能ハ号弾オ以テ打掛ケシニ毛ハ切りシモ遂ニ逸セリ惜シ。

{樺太大モズ}

本日ハ射筒ニ古[故]障在リテ十二番ノケース指器オ破損シ漸ク鍛冶屋ニ頼ミ修繕スルオ得タリ。Ridgways、Clorstanderdノ本宅ヨリ送附シ来リシニ北赤ケラノ眼ノ虹[虹]彩ハBayナル故書直スニ決シタリ。滑空高く野スリ[?]ノ飛オ見タリ。

四月廿日

東方右方ノ大河ニ沿テ上ル樺、タモ、ニ[榛]等ノ林シ長ク続キ数里ニ渉ル。余ハ風強キオ以テ南方ニ向ヘタル澤ニ入り[記載なし]里余ニシテ頂ニ至ル。茲ニ伐木セシ跡在リテ全ク風当ラヌ処ニハ(赤マシコ)相当ニ見タリ。貂ハ

少キモ処々ニ足跡オ見出サル

樺太大モズニ就テ

是ハ初列風切ノ白ニ[斑]及次列ハ基部ニ白ニ[斑]在ル筈ナルニ全ク此ノ次列ニハ白ニ[斑]オ欠ク。

尾羽ハ外則[側]ヨリ第四対迄大ナル白ニ[斑]在リ。♀ニ羽共同様ニテ大モズトスレバ胸部又ハ服[腹]部ニ淡褐色波紋在ル筈ナルニ下面ハ全ク白シ。

(二階ヨリ廿日ニ下座敷ヘ引移ル)

{21 st. April}

{大ヒバリ 北木走}

雪ノ消テ草原トナレル処ニ見出サレタリ。未タ寒キ為メ漸ク本日一羽オ見シノミ。

翼長四寸在リ脂肪多クシテ肥満シ十七匁オ量レリ。大モズハ此日一羽オ得タリ。是モ初列風切ノ外次列ニハ白ニ[斑]無し。多分♀ナル故カ然シ乍ラ尾ハ第四対迄ハ大ナル白ニ[斑]在ル事ニ抛リ悪[丑]種オ異ニスルカ其レ共♀ハ右四対迄白ニ[斑]在ル者ナルヤ。

四月廿二日

東方ノ深キ林ニ入ル。風吹テ一向鳥オ見ズ。此日白鼬オ得可ク罌オ置シ処ニ遺シタルニ餌ハ取ラレテ掛ラサリシ由ニテ往路三羽ノ大モズノ渡来セルオ見タル由話シ又此頃ハ早朝野外ニ行ケバ渡鳥ボツボツ渡来スルオ見ルオ得可シ。

四月廿三日

本日東方河沿ニ向フ一向ニ良鳥ニ出会セズ。風吹キテ林鳴リ渡リテ面白カラズ。依テ北方森林中ニ入りシニ赤尾カケスオ得亦間モ無ク木走りオー羽見タリ。兔ハ本日参頭出タルモ何れモ射巨[距]離外故発射セズ。

{北木走ニ就テ}

北木走りハ我国北海道産ト樺太産トノ総称ナルモ樺太産ハ●彩色余リニ異リ居ル事ト然シテ翼ノニ[斑]点ノ異リ居ル見れば直ニ別亜種トス可キヤ言オ待タズト思ハル。他ハ我北海道産ト比較シ決定ス可キ者ナリ。

四月廿四日

本日南方ノ左方ノ高地オ狩ル。奥マリタル林中ハ何等ノ異リタル鳥類オ見ズ。例ノ鼬ハ悪鳥カケスニ抛リテ其餌オ全部取り去ルハ為カ掛ラス。山ノ奥オ廻リテ帰ル。本日始メテムク鳥オ得タリ。

四月式拾五日（二人中食）

朝来吹雪ニテ外出モ不能ナリ。二人トモ休ム。此日昌[午]前八時頃漸ク帰ル（鼬見戻り後）。

四月廿六日（一人中食 昌 給飯外出）

本日モ北風吹ケ降雪在リテ外出モし難ク昌オ泊居栞屋旅館ニ遣シウエンチスター銃オ取寄ス可出発セシム。如何ナル出来具合[?]小樽ノ佐々木ノ職工ノ射筒ノ製作具合ヨリスレバ余リ感心ス可ニ作り方ナラサル可シト思。

{類黒 金眼フクロ}

四月廿七日記ス

赤ウソノ生殖器ニ就テハ此頃頓ニ發育オ示シ其内大ナルハ長径七ミリオ示ス者モ在リ。最近営巢オ始ムル者ノ如ク♂♀同伴シ居レリ。

大ヒバリハ四月廿一日始メテ表羽オ獲タリ。是ハ♂ニシテ脂肪充滿肥大セリ。其辜丸ノ如キモ既ニ長径六ミリオ算セリ。

本日雪オ冒シテ進行シテ多数ノ雲雀ノ野ニ道路ニ居ルオ見タリ。中ニ大ヒバリオモ見タリ。漸ク昨今渡来セシ者ラシ。

雷鳥（即チ樺太夷山鳥）ハ♂ハ辜丸ノ長径約拾ミリニ達シ此頃ハ大抵[抵]♀ト同伴テ居オ見タリ。

金眼フクローハ本日一羽オ得タリ。是ハ少ケレトモ此附近ニハ見ラル、由大約記事ノ如ク。褐灰色即チolive buff色ヨリハ濃ク体上面一様ニシテ翼ハ褐赤色オ帯フ。眼ハ金黄色 跗ハ cream color 嘴 olive Buff Wi五寸五分 TL三寸六分 Feet七分 B六分二厘 Gl七寸九分 Wa廿六分 ヤセ居レリ。

眼盤ハ白色ナリ頭上及襟巻ハ褐灰色ニ小白ニ[斑]在リ

{頭高}

類黒— 甚タ珍ラシキ種ニシテ頭部ハ無論顔及耳羽類共真黒色ニシテ耳羽ハ黒色ニテ淡色ナラズ。後頭ニ至リ中央ニ半頭央白ニ[斑]在リ。眉ハ眼ノ直上ヨリ起ク。白色ニシテ後頭ニ達ス。頸ハ濃栗色ニシテ中軸ニ[斑]在リテ此ノ栗色部ハ胸ニ至リテ頸卷オナス。脊[背]ハ濃栗色ニシテ黒色ノ軸ニ[斑]在リ。腰及上尾筒ハ濃赤栗色ニシテ淡灰茶色ノ縁在リテ尾ハ中央ニ枚ハ褐色ニテ羽縁ハ細ク茶色ナリ。外則[側]ノ尾羽ハ白色ニシテ外辨ノ先端先々ニ細長キ褐色ニ[斑]ト内辨ニ先端ヨリ四分ノ処ヨリ基

部ニ至ル褐色ニ[斑]在リ。第二尾羽ハ（外則[側]）黒褐色ニテ内辨中央ニ長サ七分ノ白色侏[朱]ニ[斑]在リ。翼ノ初列風切ハ褐色ニテ外縁ハ濃黄白色著ナル縁在リ。此縁ハ第四羽迄ニテ以下ト次列風切ハ淡茶褐色ノ縁在リ。三列風切ハ外辨ニ赤栗色ノ從ニ[斑]在リテ其外縁ハ黄栗白色ノ巾廣キ縁在リ。胸以下ハ淡灰色ニシテ脇ハ赤栗色ノ從ニ[斑]散在ス。腮ハ一分（少）位黒色ナリ。

本種ハ甚タ少ク未タ出会セシ事無カリシニ本日漸ク雌雄一番オ見テ♂オ得タリ。雪降りテ一面白皚々タル故道路ニ居リタルオ得タリ。

本日久春内ニ行キ居ル口土 君ニ会フ。

{河原ヒワ}

四月廿八日

南西方海岸ニ沿テ進行知来村落ニ至リシニ大モス及ジヨビタキ及類黒等オ得タリ。此頃漸ク雲雀及ツグミハ渡リ始メタルナルモ廿六日ノ大吹雪ニ一面ハ雪ニテ白クナリ。彼等モ困リタルナル可ク路上ニノミ降り居タリ。此日大モズ四羽オ見テ二羽オ得タリ。

四月廿九日

名寄河ニ上ル樹林中ニハ兔ハ佳ナリ多シ。鴨ハ小鴨及アイサ真鴨等オ見ル。羽白ハ金黒羽白一番オ得タリ。河原ヒワハ三四羽オ見タリ。色彩余リニ濃黄録[緑]色ニテ其ノ普通種ナルヤ疑シ。河原ヒワノ辜丸ハ長径五ミリニ達ス。

四月卅日

（小赤ゲラノ辜丸ハ三ミリ位ノ發育シツ、在リ）（樺太夷松鷄ノ辜丸ハ七ミリ在リ、）（白セキレハ七ミリ在リ）（大モズハ五ミリニ達シ）（類黒ハ四ミリナリ）

四月卅日

本日久春内道路オ進行シ往覆[復]共ニ鷹類オ相当ニ見タリ。此頃漸ク渡来セシカ、海鴨及陸鴨類ハ非常ノ数ニ群オナシ北方指シテ渡リつゝ

{キヨジャウシキ、コノリ、尾長鴨及小鴨}

在ル見受けタル。終日此鴨類ハ陸岸近旁ニ沿テ北上セリ。本日キヤウジャウシキオ見タリ。

五月壹日

本日東方競馬場ノ南方ニ於テキシ鳩オ得亦サカツラ[雁]オ得タリ。唯一羽ノ者ナリシ。是ハ多分南方ヨリマヨヒ来レルナル可ク此ノ方面ニテモ主ニ菱喰多キ由ナルモ此[雁]ハ希ナル由ニテ本朝ハ樺太大モズ♀オ得タリ。

是ハ次列風切ノ基部ニ白ニ[斑]在リ。確カニ此種ハ♂♀共ニ白ニ[斑]在ル者ナル可ク先ニ捕リタル♂♀共ニ唯ノ大モズナル可シ。鳩モ漸ク此頃渡来セリ。鴨類ハ此ノニ三日以前ヨリ漸ク見ヘ始メ本日ハ佳ナリ多ク見受ケタリ。

五月二日

河沿オ上流ニ向フ。兔ハ耳羽突端褐栗色ナリ。此頃漸ク換毛期ニ入りテ脊[背]筋等ハ少シク栗茶色トナレリ。

本日(紅マシコ)オ得タリ。

五月三日

此頃各種ノ鴨類ハ盛ニ渡北ノ途ニ在ル者ノ如シ。大槻昌オ鉋及鋸、金槌等オ買入ル可ク泊居ニ{キジ鳩ノ色彩ト四十雀ノ♀}遣ハス。非常ニ高価ナリシ無煙火薬モ在ル由ナリ。

五月四日 □人中食

本朝来東京山階家ニ小包オ送ル可ク鉋オ臺ニ取付ケントセシニ中々容易ナラズ。正十一時頃漸ク出来シ。其ヨリ正四分ノ松板ニニ壺尺六寸、巾八寸深サ七寸二分ノ箱オ造リ午後三時二十分名寄ノ局ニ着出ス。綿五十匁オハツキクニ使用セリ。

鳥類ハ卅參種壺百五十八羽ナリ。一貫□百廿五匁料金壺円也。

本日天気晴郎[朗]渡鳥在ルナラント気オモミ居リシモ小包ノ為メ出掛ル能バス。四時漸ク出テ六時ニ帰ル。河原ヒワハ嘴色甚タ淡色ニテcream色ニテ♂ハ色彩濃厚ナリ。鳩(キジ)ハ♂♀ノ差ノ為メカ色彩濃厚ノ者ト淡色ノ者ト在リ。腮喉ハCorn Drabヨリ淡ク胸部ハsmoke grayニテ上服[腹]部ヨリCorn DrabトVivacious Buff(43, 207)ト中間色ナリ。蹠ハwine purple色ナリ。肛[虹]彩ハOrange Rufous色ナリ。Waight七十一匁。

四十雀ノ♀ハ尾羽外則[側]第一羽ハ白地ニ内辨中央以下ニ黒ニ[斑](條)在リ。第二ハ先端少シク白キ小ニ[斑]在ルノミ。

丁馬ハ昨今相当ノ数ニ達シ極メテ普通トナレリ。

{ピンスエ | 磯シキ | 樺太蟲喰}

五月五日

本日風在リ。南風強ク河沿ヘノ北岸オ進行ス。雪ハ今消ヘツ、在リ。河水ノ増水甚シク道路ハ為メニ処々河流オナシ困却セリ。磯シキ及ピンスエ及樺太蟲食オ見テ後ニ種オ得タリ。思フニ此ノ樺太蟲食ナル者ハ我北海道ニ於

ケル者ト色彩並ニ体格ハ大ニ異リ居レリ。記録モ其頭央線ニ就テハ何等記スル処無カリシハ遺憾ナリシ。208号ハ即チ就テ見ル可ク頭央線モ個体ニ抛リ種々異リ亦眉ニ[斑]モ黄色ノ濃淡種々在リ。沿海洲オ経テ渡来スル者ナル可ク今日ハ始テ五七羽此河沿オ渡航スルオ見テ追撃シテ得タル者ナリ。林中ノ雪尚深ク四尺位ノ処モ在リ。

樺太蟲食ノ体測 208♂

Iris, clove Brown F, Olive B, Clove Brown

Wi壺寸七分 TL壺寸三分 F五分五厘 B三分三厘

全長三寸四分 量壺匁九分以下

前額ヨリ連□スル眉ニ[斑]ハ橙黄色ナルモ後方ニ至リテ灰色トナル。頭央線ハOlive黄色ナルモ余リ判明セサル程ノ者トヤ、判然タル者ト在リ。(辜丸未タ三ミリ)オ越ヘズ。

木ヒバリハ♂214ハ辜丸長³³[徑]ハミリメートル在リ。

{田ヒバリ | 野ビタキ | 山シキ及磯シキ | タカブシキ}

五月六日

大風吹ニ到[倒]家ノ恐れ在リ。早く归来ス。二階ノ□オ吹キ飛サレタリ。兔ハ最早オ分娩近キ者ノ如ク。二仔オ其子宮ニ見出セリ。毛ハ完全ニ生シ然モ親兔ノ長毛□ナリ。田ヒバリ及野ヒタキオ得タリ。

五月七日

午前中ハ降雨出獵シ兼タリ。午後出しニ木材会社ノ流送ニテ河水陸上ニ●主押上リ困難セリ。タカブシキ及山シギオ見テ得タリ。オシトリハ先日来ボツボツト渡来セリ。

五月八日

河ノ上流中嶋迄³⁷[赴]ク。行路山鴨オ見ル。即奄美山鴨ト同様ニテ下尾筒ハ黄褐色ニテ少シク褐色横ニ[斑]在リ。普通山シギトハ全ク異レリ。青地ハ本日漸ク渡来セル者ノ如ク。三々五々見ルオ得タリ。ルリビタキーニ渡来セリ。地シキー羽オ見タリ。本年ノ茲先頭タル者ナル可クレンジヤク拾数羽オ見テ遂ニ逸セシハ遺憾至極ナリ。追々渡来スル者多ク彼ノ先週来大モズ及樺太大モズ等ハ此頃ニ至リ全ク姿オ没セリ。

{山シギ | 地シギ | ルリ鶺 | 青地 | ニウ苗雀 | 日柄ノ巢山階家ノ返事 熊}

10 th may 1926

本日ハ(樺太山シキ)オ打ツ可ク出掛ケニ羽オ見シモ射撃ニ都合悪シク見合セリ。本日来迄行キ一向鳥ニ会セ

ス。日柄ノ営巢シ始ムルオ見タリ。柳ノ綿オ運ビ居タリ。

11 th may

本日河畔ニ於テ青地ノ変リ者ラシキオ一羽得タリ。No.249
♂ナリ。

12 th may

河岸オ上流ニ向フ。ニウナイ雀ニ羽初渡来セルオ見テ内
一羽オ得タリ。色彩服[腹]部ハ灰鼠色ナリ。脊[背]ハニ
[斑]点多クシテ濃色ナリ。本日モ山シギー羽オ得タリ。
黒田家ヘ照会セリ。

13 th of may

本日北風吹キテ面白カラズ。熊ケラオ聞キタルモ姿オ見
ス。熊三頭逸走スルオ見テ追ヘタルモ遂ニ発見スル能ズ。
遺憾ナリ。

(東京五月三日附返書来ル) 雛ハ一羽ニ付キ¥1.00ト云
ふ手当ニ決セリ。尚種類決定際シ難キ種類ハ予め山階家
ノ承認を経ル事ヲ申し来ル。

{赤服[腹] 眉茶シナイ 黄服[腹]鶯 腰白ツバメ ツ
メ長セキレ 大尺シギ}

五月十五日

本日赤服[腹]及眉茶シナイオ得タリ。甚タ小数乍ラ渡来
シ居リ松ノ密林中ニ潜ミ居レリ。

五月十六日

本朝八宿ノ屋根下ニ燕十数羽オ見タリ。爪長セキレハ一
昨日始メテ一羽渡来シ本日ハ二羽オ得タリ。カシラ高ハ
四五羽オ見タリ。鶯ハ始メテ松林中ニ鳴オ聞タリ。大尺
シギ群オナシ北方指シテ高く三十羽程飛行セルオ見タリ。
燕ハ後年一羽モ見エズナレリ。多分北方ニ移行シタルナ
ル可シ。

赤服[腹]ノ鞆丸長経[径]七ミリ在リ。

ヒンズエノ鞆丸ハ六ミリ在リ。

白セキレハ漸ク営巢オ始ム。

西[五]月十八日

久春内河畔ニ行ク。寒気甚シク小雨トナル。本日ハ小鴨
及尾長真鴨(黒鴨)ピロード●水鴨、銀[金]黒羽白、及
ヒドリ鴨等オ見亦磯シキ青シキ等オ見タリ。大尺シギハ
河口及湖辺ニ群オナシ五羽、十羽ト高く飛翔スルオ見タ
リ。

西[五]月十九日

林地ニオ廻ル一昨日頃迄相当ニ見ラレシ鳥ハ

{ミソサバエ 産卵}

本日ニ於テ全ク其影オ没シタリ。遠ク去北セシ者カ此ニ
三日寒かりシ故渡鳥モ見ラレス。本日山階家ヨリ¥500
送附シ来ル。

名寄ノ奥地三里程ナル沢ノ温き処ニテハ既ニミソサバエ
ノ産卵シ居タリト。

五月二十日

本日久春内迄最[赴]ク。途中小鷹ニ三飛翔スルオ見タリ。
黄足ノシギナラン十四五羽群オナシ海岸オ北行スルオ見
タリ。北風吹テ鳥類オ余リ見掛ケス。久春湖ハ周囲三分
ノ一里程ナリ。葭芽ニ取り巻カレ秋季ニハ[雁]野ノ渡
息オ思ハシム。此ノ附近ニハ人家ハ極メテ少ク採集上ニ
好敵[適]ノ場所ナリ。爪長セキレハ多数ニ畑ニ見ラレタ
ルモ此日打獲リシ全部八羽。八羽共ニ♂ナリシハ奇ナリ。
♂ノミ群オシ居タルナリ。♀ハ亦別ニ生殖時季迄ニ到来
スルカ？。

五月廿一日

朝来風在ルニモ不係燕飛翔シ人家ノ週[周]圍ニ在リ。岩
燕ナラン。植苗ノ家内ニ老百円送附ス。

{縞アオジ 眉茶ノ鞆 深山カケスノ鞆丸七ミリ 野ジ
コ}

五月式拾式日

本日奥ノ方面ニ里程ナル森林地オ涉獵ス。温カキ処ニハ
ポツポツト鳥オ見ル。未タ営巢ノ期ニ到ラズ。往路小柄
ノ兔毛オ喰ヘテ運ブオ見タリ。

北風強ク寒シ。シマアオジオ始メテ見タリ。

此頃漸ク爪長セキレ五々畑ニテ見ラル。眉茶シナイハ五
羽十羽ト群テ湿地ニ求食シ居ルオ見タリ。深山カケスノ
鞆丸ハ長経[径]七ミリ位在リテ眉茶シナイノ物ハ七ミリ
オ算ス。

鷹ハ漸ク春季発情ニ入レルガ如シ。

五月廿三日

本日知来迄趣[赴]ク。先ニ発見シ置キタル日柄ノ巢ハ柳
ノ老木ノ洞[穴]ニ営マシ在リタルモ余ノ見タル時、初
期ニシテ柳ノ芽ノ綿オ以テ下部塞キシニ止リシモ本日見
シニ鮮苔オ以テ半バ巢ノ形オナシ居リタルモ山道ノ近ク
ナリシ故人通多ク遂ニ茲オ見捨テ他ニ移転セル者ナル可
ク進行シ居ラズ。普通ノ場合ナレバ既ニ四五个ノ卵オ得
ベカリシニ誠ニ惜シキ事オセリ。此ノ巢オ二十間ノ巨
[距離]ニテ注意シ居リシニ今度北小柄ノ兔毛オ喰ヘテ飛

飛翔スルオ見タル故ニ注意オ掛ヘ居リシニ山鹿^ツ[麓]ノ方ヘ
数回姿オ得青地ト思ヘ居リシニ野シコナリ。翼長二寸二
三分

{タカブシキノ 壘丸八十三ミリ ツハメ来 郭公 赤モ
ス 雨燕}

タル故其方面オ尋タルニ漸ク柳樹ノ一丈程ノ南向ノ空洞
ニモラシキ者オ見出セル故攀リ見シニ全ク形オナセル巢
オ発見セリ。今度八廿七八日頃ハ二三果ノ卵オ得可キカ
本日黄鶺鴒渡来野駒雌モ来ル。

五月廿四日

本日山階侯爵家送りノ小包オ造ル可ク正午迄空費シニケ
ノ荷オ出セシハ後午二時ナリシ。四時迄出獵セシニ縞ア
オシニ羽オ得タリ。鷹^ツ[斑]シギオ得其ノ壘丸ハ長^ツ
[径]十三ミリ在リ。樺太ニ営巢スルヤ確カナリ。

五月廿五日

本日南方森林ニ趣^ツ[赴]キシモ一向鳥オ見ズ。往路ツバメ
ノ渡来セル者一羽見タリ。脊^ツ[背]部ハ全部黒色ナリ。捕
獲シテ見ザレバ一向ニ分明セズ。爪長セキレ本日五羽七
羽ト群テ渡来セリ。縞青地ハ二羽オ見タリ。

五月廿六日

東方河ノ北岸オ進行シ山林ニ入り種々巢等オ発見ニ勉ム。
此日雨燕空高く飛翔スルオ見タリ。郭公ハ本日漸ク渡来
シニ羽程鳴始メタリ。赤モズハ二羽オ見タルモ一羽オ得
タリ。モズニシテ何故ニ斯クノ如ク遅ク渡来セルヤ。郭
公ノ他鳥ニ比シ早キ事ナリ。
青地ハ目今北上シテ姿オ没シヌ。

{燕 メリケン黄足 目大千鳥 中尺シキ 筒鳥 郭公
白セキレ卵 岩燕ノ巢 シノリ鴨 眉白}

五四月二十七日

南方ノ山林ニ向フ。降^ツ[霧?]多く冷氣ナリ。
此日燕クロオ得タリ。始メテ一羽渡来セル者ナリ。
郭公オ二三回見シモ接近シ得ズ。白セキレノ卵オ得タリ。
筒鳥オ一回聞タリ。雨燕ハ遙カ上空オ翔ルオ見タリ。

五四月廿八日

久春内迄海岸オ行ク。往路メリケン黄足一羽見テ得、目
大千鳥二三オ見タリ。帰路黄足シキギ多ク見亦目大モ三
羽オ得タリ。中尺シギ三羽群オ見テ皆袋中ニ入ル。

四五月廿九日

本日知来ニ至ル途中ニ多数ノ岩燕群レ居リ。入用丈ケ打

取ル。此者ハ下^ツ[腹]ハ灰^ツ口^ツ胸^ツハ鼠色ナリ。古家等ノ軒
ニ泥オ以テ巢オ造リ居タリ。先ニ発見シ置キタル小柄ノ
巢ハ何物カ悪サオセン者ト見ヘテ他ニ移転セシ者ノ如シ。
シノリ鴨オ獲帰路眉白オ密林中ノ小川ノ岸ニ獲タリ。
白セキレハ最早ヤ雛ハ生後尙週間位オ^ツ[経]過セシ者ノ
如シ。青鶺鴒ノ北方ヨリ南方指シテ空高く飛翔シ行くオ見
タリ。此頃爪長セキレ及白セキレ、及ノジコ最多ク見
ラレ、ピンズエモ亦相当ニ見受ラル。思フニ此地方ニテ
育雛スルナル可レ思ハル。眉白ノ壘丸ハ大キク長^ツ
[径]12m[m]在リ。

{海雀 大ハム 北木走ノ壘 麦マキノ♀ 小ルリ 黄
セキレ 蟲食 サメビタキ 夷蟲食}

五月卅日

本日久春内道路オ進行ス。北風強ク鳴類打ニ不^ツ[敵]故
ニ山ニ入りシニ木走二羽オ得間モ無く遠方ヨリ発見シタ
ル烟一面空オ覆ヘ為メニ小鳥ハ附近ニ居ラズ。已無く切
リ揚テ書面オ山階侯ニ書ク。是迄ノ鳥類ニ附テ心附キ処
オ記シ送ル。海雀及大ハムオ見ル。北風故射テモ捕レズ
射撃セサリシ。目下渡来シ居ル鳴ノ内黄足ハ相当ニ見ヘ
居ルモ多数、打取リシモ皆メリケン黄足ナリシ。北木走
リノ壘丸ハ長サセミ半ニ達ス。

六月一日

北風雨雪出獵不可能故ニ諸手入オナセリ。

六月二日

東方河ノ上流ニ里程ノ小支流ノ旁ナル柳等ノ林中オ涉獵
ス。小ルリオ見タリ。黄セキレハ一羽オ見タリ。本日初
メテ麦マキノ♀オ一羽見タリ。郭公ハ数ハ追々ニ多クナ
レリ。蟲食ハ灰色ノ者二羽オ得タリ。本日中食ノ時木材
流送シ来リ危^ツ[険]ナリシ。眉白四羽オ見ル。追々ニ多
クナラン。

六月参日

本日奥ノ方ニ里程ノ地点ニ趣^ツ[赴]ク。往路センニウ?

{サメビタキ 蟲食 ♀シマアオジオ得}

ラシキ者オ見追撃シテ是オ得タリ。SpNo.81ナリ。此日よ
り始メテ樺太ホトトギスラシキ鳴声オ^ツ草ノ間ニ聞キ又、
大赤ケラハ♂♀二羽オ発見シ二羽共是オ得タリ。此二羽
ハ生殖期ニ至ラザル者?其共既ニ時季オ^ツ[経]過シタル
者カ卵黄ハ小サク五ミリ位ニテ壘丸ハ ミリナレリ。
キシ鳩モ未だ生殖期ニ至ラズ卵黄ハ七ミリ位ノ者大ナル
方ナリシ。

六月四日

不^ニ[本]日移ル可ク支度ノ為メトラツプオ納ム。本日ハ一向ニ鳥ニ出会セス。唯サメビタキオ得タリ。無地セツカハ三々五々渡来スル者ノ如ク。録^ニ[緑]草オ踏ミ歩ケバ希ニ出ルオ見タリ。本日三羽オ見タルモ打落シ乍ら漸ク一羽オ得タリ。

六月五日

本日朝ヨリ風在リテ鳥打ニハ不^ニ敵^ニ[適]。競馬場内ノ草深キ処オ尋ネシニ無地セツカオ見テ射落シタル負傷シテ潜入シテ遂ニ獲ス。此朝始テ縞アオジノ♀渡来セルオ見テ即チ二羽オ得タリ。セツカモポツポツト渡来シ始メタリ。蟲食sp84ノ腰ノ茶白色ナラサル者オ得タルモ余リニ大破シ漸クニ形丈ケ終^ニ[修]繕し得タリ。No.465、♂ナリ。此時鞆丸ハ長形ニテ五ミリオ算ス。

{日柄卵 蟲食 ウツラ ミサゴ シヨウドウ燕 熊ゲラ}

六月六日

本日弾薬オ買取ル可ク大槻オ泊居町ニ遣ス。散弾ハ九号以下品切ナリ。W二百丸入三円五十銭ナリ。高価ナリ。余ハ一人南方ニ趣^ニ[赴]ク。小蟲食オ得タリ。

六月七日 (此卵ハ抱卵後尅週間オ至^ニ[経]過)

東方二里余ノ地点ノ柳ノ空洞ヨリ北日柄ノ巢オ得卵子ハ八果在中ナリ。白地ニ栗色ノニ^ニ[斑]点在し。長至^ニ[径]十七横至^ニ[径]十一ミリ在リ。鶉二羽見タルモ得ズ。無地セツカノ下腹^ニ[腹]全部茶色ノ物在リ。(484)ナリ。

六月八日

本日東京山階家行小包オ荷造リシ差出セリ。料金壹円八十五銭也。午後、昨日ノ鶉ノ出し処ニ行キシニ二羽出タル故射撃シタルニ一羽ハ翼オ破メ落チタルモ草深クシテ遂ニ逸セリ。此日ミサゴノ魚オ握リ乍ラ飛翔し行クオ見タリ。午後ハ東海岸白浦村ニ向ケ出発ス可ク荷造オ初ム。

六月九日

天候曇リ勝ナルモ出発ニ決シ馬車オ金式十五円ニテ雇ヘ前五時出発ス。途中、久春内河畔ニテ多数ノ砂ムグリ燕オ見タリ。漸ク渡来セル群ナル可ク一約三百羽位ハ在リタリ。丁度銃品オ馬車ニ積込{両岸ノ横口 最短巨[距]離ノ処}在リシ是ヨリ何処ニ行キテモ居ルナラント思ヘ捕獲セザリシ。河口ニハミザコオ見亦東海口時々見ラレタリ。

熊ケラハ此日数羽河オ越テ見ラル。高ク飛翔シテ向ノ山ニ行クオモ見タリ。

久春内、白浦間ノ地形

久春内ヨリ東海岸白浦ニ出ル道路ハ佳ナリ□キ土ナルモ相当交通在ル故難路ナラサルモ小山復重シ居オ以テ其祐オ宇廻^ニ[迂回]セザル可カラズ為メニ佳ナリ週り道オナス。敬遠シ久春内河畔ハ相当ニニ^ニ[雑]木林及針葉樹林在リ四里半オ巨ル裏ト云フ茶店ノ在ル当リ迄ハ左程急斜ナラズ。此間谷間ニハ平坦地相当在リテ農耕敵^ニ[適]地多し。峠ハ轟ノ廿町程久春内ノ方ニ在リテ峠ノ附近ハ少シク無立木地在リ是レハ日露戦ノ当事敵脊^ニ[背]進ニ当リ放火シテ逸ゲタル為ナリト聞ケリ。此ノ附近ハ割合ニ針葉樹老ヘタルニモ不係細短ナリ。熊ハ実ニ無数ニ此ノ附近ノ谷間ニ出没セシハ此ノ●軍用道路開設当事ナルモ今ハ甚タ少クナリシ由ナリ。●裏ヨリハ斜モ緩カニ三里程ニテ海岸真縫ニ至ル道路及馬群潭方方ニ行ク道路ト亦南東白浦ニ至ル道路ノ分岐点ハ目下停車場工事ノ為メ土工夫数多入り込ミテ材木オ伐●採中シテ家屋健^ニ[建]設中ナリ。軍用道ハ山間オ経過スル事故約壱里近クモ遠ク海岸ノ方真縫ヨリ断□[崖]ノ下オ通過スレバ近し。野即チ平坦地ハ少(十三里ノ間ニ見タル鳥ノ種類)

ク東白浦村当リハ海岸ヨリ急坂オナシ小山ニハ針葉樹密生シテ鳥類標本採集上ニハ甚タ地勢悪し。

折悪シク梅雨近キオ以テ此日午後ヨリ濃厚ノニ^ニ[霧]降りテ夙^ニ平^ニ[閉]口セリ。即●チ衣類ハ下迄浸雨セリ。東風吹ケバ甚シク気温下降シ手ハ智^ニ[知]覚オ失フ程ナリシ。藤井旅館ト云フ土地第一ノ宿ニ入レバ大槻ト共々余ハ雨ニ滾^ニ[濡]シ然モ日ニ焼ケ見ル影モ無キ姿ナリケレバ亦全部ノ荷物ハ和田ト云フ馬車屋ニ托シケル故手荷無し故ニアヤシク思ヘシナル可ク最モ暗キ尤モ粗末ナル室ニ通シ然モ衣ハ汚シクサリタル単前オ与ヘシニハ閉口セリ。宿泊料ノ高価ナルニハ全ク驚ケリ。

}	宿	¥3.50	□□
	料	1.50	ヒル
	飯	50	炭料
¥5.50			

粗末ナル食料ナルニ斯クノ如キ高価ハ樺太開発ノ為惜マザルオ得ズ。官庁ニ於テ何トカ干涉シテ今少シク値下セシム可キデ在ル。

昨日ヨリ本日ニ掛ケテ実見セル鳥ハ以下ノ如シ白浦迄大タカ。|ノスリ。|宙ヒ。|ミサゴ。|シヤウドウ燕|。岩ツバメ。|雨燕。|無地セツカ。|赤服^ニ[腹]。|熊ケラ|。小ケラ|北赤ゲラ。河原ヒワ。|真ヒワ。|大ヒバリ|。ヒバリ。|爪長セキレ|。白セキレ|スゞ

メ。|ビンズエ。|夷蟲食。|小サメ鵜。|サメ鵜。北青地。|黄鵜。|郭公。|筒鳥。|脊^{ツツ}[背]黒鷗。|白カモメ[?]。|鵜。|銀^{ツツ}[金]黒羽白。|シノリ鴨。|真鴨。|野ヒタキ。|縞青地。|ケイマフリ。

九日

本日山階家へ向ケ散弾ハ白浦へ送ラザル様申し送ル。

{黄鵜ノ卵 白服^{ツツ}[腹]木回ノ雛}

黄鵜ノ♀オ獲シニ卵殻未タ柔カキモ茲一両□□□産出ス可キ者ト思ハル。長^{ツツ}[径]十三ミリ横^{ツツ}[径]拾ミリ半在リ。殻ハ半ニ^{ツツ}[透]明ニシテニ^{ツツ}[斑]点未タ無シ。

北風吹キ雪降りテ甚寒シ。北小柄ノ巢オ発見シタルニ既ニ出殻ノ物ニ仔及未破殻ノ者五ケ計七ケ在リタリ。

(No.4)ハ其レナルモ殻ハ破損シテ参考品ニヨリナラズ。

六月拾日

ハ雨降りニテ出獵ハ不可能ナリシ。

六月拾老日

本日南方ノ最モ大ナル澤ニ^{ツツ}[赴]ク。此沢ハ予定鉄道オ通スル真縫ノ少シク奥ノ方久春内方面及東方ノ各地ト交通スル要路ニ達スルオ得可ク山間^{ツツ}[迂]回甚シキモ左程ニ高峠ハ無し。採集地トシテハ余リニ^{ツツ}[狭]クシテ種類多カラズ。余ハ左方ニ岐レタル深キ沢ニ入りシモ数種ノ鳥類ヨリ見当ラズ。此日寒サ強ク雪降り又白樺ノ大ナル者針葉樹林中ニ散見ス。北赤ケラモ時々見ラル、モ枯損木少ク熊ケラハ見ルオ得ザリシ。

六月拾弐日

小降雨オ冒シテ昨日行シ沢ノ奥ノ方探^{ツツ}[検]ス。白服^{ツツ}[腹]木回ノ巢オ発見シタルモ時期遅レシ故遂ニ生後老週間位オ^{ツツ}[経]過シタルナル可ク相当ニ大キクナリ居レリ巢ハ地上式丈五尺程ノ白樺ノ枯木ニ南面セル節穴ヨリ入ルテ五寸程下方ニ廻リ七八寸直^{ツツ}[径]ニ寸七八分位ニテ材料ハ皆白樺ノ□[角]皮オ以テ造ラレ在リ。四羽ノ雛在中シ居レリ 此日ノ実見鳥類左ノ如し。

嘴細鳥。|海ネコ。|脊黒カモメ。|鵜。|ミサゴ。|大ハム。無地セツカ。|河原ヒワ。|真ヒハ、雀。。|小サメヒタキルリ鵜。|黄鵜。|小柄。|日柄。|小ケラ。|北赤ケラ。|蟲喰。|椋鳥?。

六月拾参日

少シク降雨ナルモ昨日ニ比シ風弱シ。北方ヨリノ発動船ハ交通シ始メタリ。午後晴ル。

六月拾四日

本日当別丸ト云フ発動機小船来ル。此船ハ散江迄行ク旨故余ハ直ニ出発ス可ク一切ノ荷物オ造リ正午頃出発セリ。此ノ小船ハ一ヶ月一回丈ケ散江迄行ク由ニテ其他ハ柴浜敷香間ノ不定期航路舟ナリ。頓数八十頓位ナル可ク在リシテ危カシキ者ナリ。本日ハ海波収マリテ実ニ好天気ナリシ。午後四時半頃元泊港ニ入ル。市街ハ近来大ニ発展セシ者ニテ戸数ハ千余モ在ル可ク郡支庁所在ス。余ノ乗リシ小舟ハ客室ト云フよりハ家根ノ掛リシ荷置キ場ト云テ然ル可ク。茲ニ二十人程ノ人才押込ム室ハ小量位故無論横臥スル能ハズ閉口セリ。元泊ニ入りテ上陸シ旅舎客土也ト云フニ宿る。一泊三飯三円五十銭也シ。割合ニ安シ。

六月拾五日

早朝来風波起リ小船ハ出発セズ。余ハ附近オ散歩シ乍ラ採集地点オ相シタルモ此附近ハ松林ノミニテ望マシカラズ。

六月十六日十七日

ハ風浪高ク出船シ難ク亦々滞在ノ已ム無カリシ。此日朝南方ヨリ激浪オ冒シ小発動機ノ来ルオ見ル。或ハ^{ツツ}[遭]難スルニハ非ズヤト村民多数海岸ニ出テ見ル。漸クニシニ^{ツツ}[潤]ニ入りタルオ以テ安心セリ。

六月十八日

前五時半元泊オ出発。波浪少シク在リタルモ収マル見込ニテ漸々ト温和トナレタリ。途中各地寄港シテ午後五時半敷香ニ入ル。河中ノ棧橋ニ横ニ着スルオ得テ夕食ノ為メ上陸ス。

当別丸ハ客人ニ水茶オモ給セズ夙ント荷物同然ニ客オ待遇スルニハ全ク驚カサレタリ。樺太ニ非レハ見ラザル所ナリ。運賃及解等ノ高価ナル全ク一驚オ喫シヌ。名寄村出発以来散江ニ着

{散江、宿、採集地点、}

スル迄ニハ実ニ二百五十円以上オ費セリ。人夫一人ノ賃金ハ柴浜方面ニテ一日金五円五十銭ナリ。亦馬車ハ一日十五円以上(雇切)ノ高価ニテ冬期ノ如キハ東海岸一日行程ノ処四十円位ナリ。

六月十九日

午前三時半河口オ出テ散江ニ向フ。タライカ及十号ニ寄りテ正午散江ニ着ス。風波無ク好都ナリシ。解及手荷ノ運賃ハ頗ル高価ニハ驚ケリ。散江ヨリ北知床ノ岬迄ハ行程十七里在リテ二日間オ要ス。散江ハ七八十戸漁村ニテ^{ツツ}[魚]肥オ燥シ在ルオ以テ一面ニ海岸ハ臭気甚シク困リタリ。此附近ハ針葉樹ノ外ニ白樺及ヤチニ^{ツツ}[榛]等在リテ啄木鳥類モ少シハ居ルラシ。

東白浦敷香間ノ鳥類採集地点トシテ好個ノ場所ト思ハレシハ馬群川ノ沿岸ナリ。茲ハ林少キモ奥深ケレハ陸鳥ハ各種採集在ル可シ。海岸ヨリ木見ユルハ東知取りヨリ北方新聞川ノ附近及内路ヨリ南方ニハ樺ニ〔榛〕等里々余ニ茂レルオ見ル。

陸路幌内河ノ上流ニ至ルニハ内路ヨリスルオ便ナリトス。目下国境守備ニ趣〔赴〕ク看守等ハ宿舍ノ出来ル迄敷香ニ滞在スル由ニテ五六人才同般〔伴〕セリ。大抵〔抵〕ハ軍道五六里離位ニ宿舍ノ設在ル由ニ聞ケリ。夏季ニハ希ニ小蒸気船オ溯上セシム由

{東白浦、散江間ノ鳥}

海鳥ハ脊〔背〕黒カモメ。海ネコ。白カモメ。ケイマフリ。腰白鶺、鶺。アビ。海雀。赤襟カイツブリ 大鷗、黒鴨、ヒロードキンクロ 羽白鴨、真鴨、イトピリカ、角眼鳥。アジサシ ミサゴ、トウゾクカモメ、海燕、海アオム

散江地方ノ陸鳥

陸鳥ニ於テハ敷香ニ於テハ郭公及筒鳥オ聞ケリ。

散江ニテハ18th jun 1926,ヨリ

樺太夷雷鳥、|筒鳥、|郭公、|マキノセンニウ、赤ウソ|、嘴細鳥、|星カラス。|真ヒワ、|夷蟲喰、小蟲喰、|黄赤服〔腹〕蟲喰。|樺太蟲喰|褐色蟲喰、サメヒタキ、|小サメビタキ。|日柄、|北小柄、ルリ鶺。|雨燕|岩燕、|白セキレ|、爪長セキレ、野ゴマ|野ビタキ、|木ヒバリ、ライテウ、アトリ、シマセンニウ 嘴廣鴨、

[シマセンニウ 赤襟ヒレ足シギ ヒンズエ巢 松鷄ハ既ニ]

六月廿一日

本日東方散江湖ニ行ク。潮干ナリシ為メ水少カリシ。其ヨリ林間オ通シ草間オ追立テ乍ラ来ル。佳路一羽ノマキノセンニウオ見ル。シマセンニウハ割合多シ。夷雷鳥ハ目下産卵期ナル可ク本日獲シ♀ハ服〔腹〕部ノ皮厚ク羽毛ハ裸トナリ居レリ。褐色蟲喰（91ノ種）ハ多分ウチヤマヘセンニウト云フ者ナル可ク。大抵〔抵〕ハシマセンニウ同様ノ習性ニテ追ヘバ匍松ノ中ニ入り込ム。其鳴声ハセンニウ類ノ物ナル事オ思ハシム。赤襟ヒレ足シギハ脇オ負傷シ居リシ為メ直ニ射獲スルオ得タリ。メリケン黄足ハ一羽オ得タリ。

熊ハ至ル処ノ山野オ跋涉シ居ル者ノ如ク足跡隈無ク草間ニ印シ如何ニ多数居ルカオ思ハシム。西方ノ禮文華山ハ急坂オナシ熊ノ足跡多数ナリ。

六月廿二日

本日西方高地ノ大白樺林ニ趣〔赴〕ク。雨燕及赤服〔腹〕等オ得樺太夷松鷄ハ既ニ育雛中ニテピンズエモ亦生後十日位オ至〔経〕過シ居リテ小山ノ草間ノ地点ニ営巢セリ。赤服〔腹〕及ノジコハ漸ク此附近ニ到着セルノミナリ。シマセンニウ及内山センニウハ追々多数トナリテ後者ハ目下毛羽等ノ材料オ運ビツ、在リ。ピンズエノ巢ハ草ノミナリ。雨燕オ海中ニ打落シ小舟ニテ追ヘ行キテ採リ上ゲタリ。

{爪長ノ卵 ケイマフリ コノリ ノスリ 熊鼠}

六月廿三日

矢向内ノ廿年以前ニ野営セシケ処ニ趣〔赴〕ク。往路雨燕ノ巢オ組シ岩オ通過ス。此附近（五号）ハ海鳥多ク岩涯ニ来リテ止マル者多クイトピリカ及ケイマフリ多数ナリシ。（シノリ鴨）ノ群多数磯近ク見ラル。風浪荒キ日ハ礼文化山道オ通ス可ク然モ一上一下非常ノ難路ナリ。北知床半嶋ニ行キシ木材会社員帰来シテノ話ニ抛レバ海鳥ノ卵ハ未タ尚早ノ由ナリ。

六月廿四日

本日雨燕オ満数ニナリシ丈ケ打取り後矢向内山奥ニ向フ。急坂オナセシ山々相乗り奥ハ中々深シノスリ鷹オ得亦コノリオ得タリ。

六月廿五日

雨天、村ノニ〔祭〕礼ナリシ故休業ノ余議〔儀〕ナキニ至ル。

六月廿六日

雨午後出獵シタルモ道オ失シ漸ク奥ヨリ帰ル。変リ鳥ニ種オ見シモ茲ニ逸ス。

此地方昔時ハ熊鼠確カニ居リシ由確メヌ。

{磯シギニ附 鎌羽雷鳥及三指ゲラ}

六月廿七日

本日、大槻オ（多来加）ニ趣〔赴〕キ鴨ノ卵オ採集ス可ク遣シタリ。余ハ元ノ（ウエンコタン）穀具迄彼オ送り乍ラ行ク途中ヤマヒ●バリ〔?〕ラシキ者五羽程オ見タリ。然シ乍ラ風強ク且ツ此鳥ハ非常ニshyニシテ射巨〔距〕離ニ入ラス。入りテモ岩ノ上ニ落下シテ入手シ難キオ以テ遂ニ射撃セサリシ。本日得シ（磯シギ）ハ其尾羽ハ普通ノ場合ハ中央ニ枚丈ケ脊〔背〕部ト同様ナルモ本日ノ者ハ中央四枚ハ脊〔背〕ト同様ニテ其ヨリ外則〔側〕ニ至ルニ枚ハ先端ニ小白ニ〔斑〕在リテ最外則〔側〕ノ二枚ハ白地ニ褐

色ニ[斑]在リ（即チ十二枚尾ナリ）。脊[背]面ハオリ一
 ブ褐色ニ赤味在リテ脊[背]部ノニ[斑]ハ褐色ニシテ粗ニ
 散在ス（横ニ[斑]）。小翼羽及初烈[列]雨覆ノ外縁ハ純
 白色ナリ。及大雨覆ノ先端モ白色ナルモ翼ノ白ニ[斑]ト
 重リテ口者ナラス。翼ニ[斑]ハ初列第一羽ニハ無し。
 第二羽ハ淡色ナル灰白ニ[斑]内辨ノ外半部ノ巾ニ在リ。
 第三羽ヨリ白色トナル羽軸ハ夙テ黒褐色ナリ。腮、喉、
 ハ白ク胸ハ灰褐色ニ褐色ノ細キ軸ニ[斑]在リ。三列風切
 ハ白色部無ク第二羽ト同長ナリ。跗蹠ノ前後共蛇腹[腹]
 状ナリ。本標本ハ上嘴破損セリ。

六月廿九日

東北方二里程ノ森林中ニ於テ鎌羽雷鳥ノ♂オ獲タリ。目
 下薄暗キ大樹ノ密林中ニ棲ミ夷松ノ新芽オ食シ居リ。亦
 トリップノ新芽等ノ胃袋ニ見出セリ色彩ハ内田氏ノ鳥類
 図説ニ大約一致スルモ冬羽ハ異レリ。

{北知床岬行}

此北知床半嶋ハ啄木鳥甚タ少ク漸ク本日十日間ニテ初テ
 一羽オ見テ是オ得タリ。西海岸名寄ニテ獲シ♂ノ色彩ト
 少シク異レリ。肩羽ハ無地ナリ♀。

六月卅日

奥ノ東方指シテ二里程進行セシニ松山相重リテ展望スル
 能ハス。西方ニ向テ帰ル途中能戸川左方ノ上流ノ林中ニ
 テ鎌羽雷鳥二羽オ得タリ。三号ノ奥ノ山ノ後方ニ出テ漸
 ク河流ニ沿テ帰ル。此辺ノ奥ノ方ハ夷松及落葉松ノ大ナ
 ル者在リ。

大槻昌、多来加湖畔ノ卵オ持帰ル。未●夕最盛季ニ至ラ
 ズ五種ノ鴨卵及小鳥ノ卵二種四拾個程オ得タリ。三日間
 外泊及渡船料共七円八十銭オ要シタリ。

七月参日

昨日以来北知床岬ニ趣[赴]ク可ク諸般ノ順[準]備オシテ
 出発セシハ午前七時ナリ。能戸ヨリ二里ニシテ散江湖ノ
 口ニ達ス。干潮時ナリシモ深クシテ水勢急ニシテ、渡涉
 スル事能ハス。篋[筏]オ造リテ荷物オ載センニ水面ト夙
 ト平カナルモ横木オ渡シテ荷ノ滾[濡]ル、オ防ギテ漸
 ク渡リ海浜オ沿テ進ム。即チ涯上ハ平カナル野ニシテ一
 面苔及ニ[雑]草繁茂シ処々ニ葡松及落

{北知床行ノ一}

葉松ノ高カラザル物生ヘ海風強キ為メカ其風致云シ方無
 シ。枝振り奇妙天下一品ナリ。我日本中斯クノ如キ松林
 ハ唯此ノ北知床半嶋ニ在ルノミ。散江湖ハ塩水湖ニシテ
 尚ヨリ大ナル影（山ノ）ノ湖ト続キ居リテ水深クシテ此
 ノ湖トノ中間ハ渡渉スルオ得ズ。平野ニハ種々ナル小鳥

オ見タリ。ホシガラス甚多ク主ニ葡松ノ実オ食シ居レリ。
 行ク事式里余ニシテ船越湖ニ達ス。水浅ク大浪ハ良ク此
 ノ湖ノ堤オ越テ内ニ入ル故ニ水ハ塩水ナリ。小魚等居レ
 リ。此辺ハ一面平且[坦]ニシテ昔時ハ順鹿ノ行通往セシ
 跡小路トナリ居ルオ見タルモ現今ハ絶滅ニ近キツ、在リ。
 余等重荷オ負テ進ム事トテ時間掛リテ円洲迄行クオ得ス。
 既ニ日没トナリ未タ草間オ踏分ケテ進ミシモ折柄雨降り
 出テ雨具無シノ余等ハ実ニ閉口セリ。已ム無ク稲荷ノ小
 詞[祠]ニ寐ル可ク決シ直ニ携帯ノ米オ飯[炊?]キテ食シ
 詞[祠]ニ入りシヲ足オ延スオ得ス。間口三尺奥行三尺ト
 ●云フ峽[狭]キ者ナリシ故茲ニ露営ノ第一夜オ過ス可ク。
 余リニ寒ク夙ノ眠リナシ難シ。

一瓶ノブランハ以テ一週日ノ夕飯ニ用ユ可ク用意セシ
 者オ喬[吞]シテハ半時間位づ、眠リ醒[醒]テハ寒サニ振
 エテハ直ニ亦飲ミ急チニ[翌]日ハ大切ノブランハ空瓶ト
 ナリス。

七月四日

午前四時頃ヨリ雨降りシキリ余等ノ朝食オ炊クニ困難
 セルモ兎ニ角飯トナシテ喬[吞]込ミ又八時頃漸ク
 {バラト岬}

出発シ余里余ニシテ式湖ニ会ヘ一湖ハ深クシテ湖口ハ渡
 リ難ク後者ハ木材オ集メテ篋[筏]オ造リ渡ル。損頓山ノ
 西ニ[麓]ハ廣キ原野在リテ苔オ生シ葡松茂リテ雷鳥ノ棲
 ムニ敵[適]シ時々鳴声オ聞ク由聞又居ルラシ、狐ハ此ノ
 葡松地帯ニ甚タ多シ。此日南船越岬ノ古小屋ノ風吹キ込
 ム処ニ蕙オ張りテ夜風オ防キ披[疲]勞シタル身オ横ス。
 此夜狐ノ為メ昼間獲リ置キタル鴨オ盗ミサラル。

七月五日

天気晴郎[朗]。前四時起出テ朝食ノ仕度オナシ出発セシ
 ハ前六時半頃ナリシ。此ノ附近ヨリ岬ニ至ル間ハ奥ノ方
 ハ落葉松ニテ原野ハ敵オナシテ葡松ノ重茂シ居リテ雷鳥
 多キ事オ思ハシム。往路海岸オ沿テ進ミシニ礫多クシテ
 進ミ難クバラトニ着セシハ十時頃ナリシ。小屋在ル筈ナ
 リシニ見ヘズ。致シ方無キ故余等ハ流木丸太オ集メテ涯
 ヨリ斜ニ立テ掛テ急造ノ丸太小屋オ造リニ[隙]間ニハ
 草オ押込テ風ノ吹き入ラヌ様ニナシテ入口オモ設ケテ草
 オ敷込ミ蕙モ敷カヌ小屋オ造リ此夜ハ茲ニ居オ占メテ明
 日ノ仕度オナシ。本日南知床岬ノアザラシ多数ニ眠リ居
 ル処オ見且つ産卵中ノ鵜、カモメ、海ガラス、等ノ集合
 シ居ル処オ昌ニ見セ明日ノ案オ立テヌ。

{食糧盡ル}

七月六日

本日潮ノ干時オ考慮シテ北東ノ岬ヨリ進行シ第一ノ岩オ^ツ回シテ鳥ノ産卵シ居ル直下ニ立又無数ノ海ガラスト鵜及黒足カモ等群ハ翔飛シ姦シク鳴キ人ノ話し聞取レヌ位ナリ。即チ入用ノ数丈ケノ鳥類オ獲テ更ニ南方岬ニ行キシニ無数ノアサラシ岩ノ上ニ登リテ眠リ居リ。余ハ余リ面白サニ遂ニ一弾オ送りシニ命中スル者三四ナリ。然シ水中ニ飛込ミ跡方^ツ無ク去リ又遂ニ彼等ハ遠ク潮ニ死体オ運ビ去ラル、ナラン。即チ帰リテ夜十時頃迄製作セシモ寒サハ冷ク手足ハ自由オ失フ位ナリ。左モ在ル可シ。余等ノ居オ占メシ旁ハ白雪八九尺積居リ遠ク四五町ニ渉ル。今回ノ標本採集ノ行ニ抛リ十九年前ニ余ノ此ノ附近訪問セシ時ト比較スレバ実ニ鳥類ノ少キ事ハ驚クノ外無し。是レ我樺太庁ノ獵政ニ宇ナル故因タラズンバ非ルナリ。漁業ニシテモ亦然リ遠キ未来ハ知ラズ目前ニ漁業モ不振ニ沈ム可ク亦貴重海陸ノ鳥獸モ影オ没スルハ遠キニ非ル可キオ思ハシム。

七月七日

昨夜来雨降りテ北風吹キシキリ寒サ頓ニ加ハル。加フルニ急造ノ丸太ハ雨漏リテ居ルニ処ナリ。寐具迄モ^ツ濡ル火ハ燃ヘズシテ然モ海ヨリ打揚ラレタル木故●煙リ眼ニ入レバ明眼オ開キ居ル能ハズ。夙ント困却シタリ来ル

{オットセイ}

時ニ擔ヘ来リシ四柙ノ米ハ激シキ労カノ結果予定ヨリ早く食シテ既ニ明朝ノ一食分オ余スノミ。余ハ米食オ節シテ肉オ代テ食シ大槻オシテ米飯オ食ハシメテ遂ニ此小屋オ見捨テ三里程ノ南船越岬ニ在ル古小屋ニ退却ス可ク決心セリ。其ハ大槻カ米補充ノ為メ六里モ行路オ往覆^ツスルオ四里余ノ片路ニ短縮シ得ル故ヲ在ル。

七月八日

朝来ノ雨午ニ至ルモ晴レズ。遂ニ此日雨中出發ト決シテ荷オ負テ進行シ北風強ク吹テ半里ニシテ遂ニ全身下帯迄^ツ濡ル。手足ハ氷ノ如ク冷ク半バ知覚オ失フ位ナリ。漸ク四時頃小屋ニ着シ火オ燃シテ暖オ取り人心地附テ後最後ノ米オ炊テ食シタリ。

七月九日

大槻員^ツ頓、漁場ニ行塩鱒ニ尾及米七柙オ持参シ来ル。茲ニ於テ大ニ元気オ出シテ行動頓ニ活発トナル。人ハ食物無クシテ一時モ我慢シ得サルハ情無ク思ハル。本日内^ツ臙臙ノ大ナル者海岸ニ打揚ケラレ在ルオ見附テ大槻来ル。

七月十日

本日昨日ノ獸オ剥カント思ヘ行シニ巨大六十貫位在リテ中々ニ動カシ難シ。漸ク皮オ剥テ荷ヘ来ル。此日白ライ鳥一羽オ得タリ。葡松地帯ニテ珍鳥キンザンマシコオ見タルモ折悪シク雨ノ為弾片附ケ在リテ急ニ出シ難ク其内ニ何レヘカ去リテ分明セズ惜シカリシ。♀ノキンザンマシコオ得タリ。

七月十一日

昨日ノ皮オ脂肪オ去リ且つ張りナリシテ終日オ費セリ。

七月拾二日

北知床半嶋ノ突端ニ向フトビリカ七羽オ打落シタルモ海潮悪シク沖ニ運ビ去リテ惜シクモ其内一羽オ得シノミ。帰路狐多数オ見テ三頭オ得タリ。

七月十三日

昨日ノ狐其他鳥ノ製作ニ費シタリ。昨日ノ卵オ煮テ食セシニ腸オ病テ苦慮強ク遂ニ散江ニ帰ル可ク決心セリ。

七月十四日

出発。重キ荷オ負テ進行シ員^ツ頓オ越テ二里半程ノ海岸ノ破小屋ニ宿リテ眠ル時即チ板ノ上ニ

{北知床岬附近ノ鳥}

毛布一枚オ蒙テ劣シタル身オ横ヘシモ三時間程ニテ眠ル能ハズ。早朝出發シテ四時半頃散江ニ帰リシニ家内及山階家ヨリ書面及金員等送り来リ在リ。即チ帰路海岸ニテ得シ尾黒シキ、オバシキ、小オバシキ、浜シキ等オ製作シ、十六日及十七日ハ遂ニ標本手当ニ費セリ。

七月中旬

北知床岬迄ノ鳥ハ以下ノ如シ

アヒ | シノリ鴨 |、ヒロードキンクロ、 | アイサ | ケイマフリ | アシサシ、 | 黒足カモメ | 脊^ツ[背]黒カモメ | 海ネコ |、三指カモメ | ユリカモメ | 氷鴨 | 真鴨。 | 赤頭鴨 |。小鴨。 | イトビリカ、 | 角眼鳥、 | 海鳥 | 姫鵜 |、銀山マシコ、 | ホシガラス。 | 夷蟲食 |、小蟲食、 | シマセンニウ | 隼。 | ミサゴ。 | 爪長セキレ | 野ゴマ | 小柄。 | 日柄 |。郭公。 | ライ鳥。 | トウネン | ヒバリシキ。 | タカブシギ | 大嘴シキ | 尾黒シキ |、オバシキ | 小オバシギ | 浜シギ | 目大千鳥。 | 白腹^ツ[腹]盜賊鴨、 | 小尺シキ | 嘴広鴨

{標本腐ル 紙ケースハ}

山階家ヨリ書状在リ。先ニ余ヨリ要請セル散弾ハ東白浦

村迄送り置カレシ由直二東白浦局ニ向テ照会ス。亦東京へハ亦々送り呉ル様願置タリ。

紙ケースハ樺太ノ如キ湿気多キ処ニテハ良ク乾燥セル処ニ置クオ要ス。余ハ知床半嶋ニ於テ澎[膨]大シテ閉口セリ。

先ニ余等ハ帰路オ考慮シテ剥皮し悪[垂]硫酸オ塗布センマ、箱中ニ入レ置キシニ何時ノ間ニカ蠅ノ蟲卵オ附ケラレ帰宅シ本剥製セントセシニ皆大形ノ者ハ蛆オ生シ居リ。且ツ脂肪焼ケシ居リテ白色ノ皮羽ハ黄色ニ変シ居リ。大ニ困却直ニ手当オナシタリ。

七月十八日 第七号小包

小包オ出ス可ク箱オ造リテ入レンニ二箱入用ナラント思製作セシニ壺個ニ全部オ入ルオ得テ全数壺百個オ入ルオ得テ唯ケーマフリ壺羽オ余スノミ（知床岬行以前ノ）トナレリ。卵ハ箱ノ都合ニテ午前中ハ弾込メテ費セリ。銃ハ十余日完全ノ掃除オセサリシ故ニ今日セリ。

{ウソノ変種}

七月十九日

本日午後出獵散江湖迄行キシモ風強クシテ海鳥一向ニ見エス。浜シギハ五六羽オ見タルモ沖ノ岩ノ上ニ居リテ後ス。帰路ミサゴオ得タリ。此海岸ニハ佳ナリ多シ。本タヨリ袋等オ製作セリ。

七月二十日

本日ハ西北方海岸ニ行キシモ鳥類少ク然モ小粒弾オ持参スル事オ忘シ四五発ヨリ無し。四時頃帰ル。野ゴマハ佳ナリ見ラル。ウソノ色彩ノ変リタル者オ得タリ。♂ノ幼鳥ナランカ。頭部、脊[背]、腹[腹]、口ニ赤味オ含メルHair Brownニシテ翼及尾ハ金属光泽在ル黒色ナリ。ピンズエハ脊[背]部黄色強ク春季トハ変リ居ルガ如キ故特ニ一羽オ得テ製作ス。此頃ハ前記二種ノ雛ハ既ニ少シク飛ベル位發育セリ。本朝迄ストーフニ温暖オ取りシ者午後ヨリ異衣ニテ宜シクナリタリ。

{三指ケラノ雛、大夷鼬}

本日奥ノ森林中オ狩シテ鎌羽ライ鳥オ二羽オ得外一羽ニ二射シタルモ逸セリ。

三指ケラニ羽オ見テ是オ得♂ノ大ナル方ハアルタイーカスナラン。雛ノ方ハsex不明ナルモ頭頂黄色ノ羽毛在ル故多分♂ナラント思ハル。

夷鼬ハ農林省ノ岸田氏発表ノ体格トハ全ク異リ其後脚及耳頗ル大ニシニ[テ]今迄発表サレシ者ハHB225, TL,70, HF 36.5 ER,13,樺太産ノ者ノ体格ニテ夏毛ニテモ耳及足ハ白キ由

今回ノ分ハ耳モ共ニDrab(赤黄褐色)

HB,235 TL,88 HF,46, ER,20.5ニテ全ク体格オ異ニセル者ナリ。

アームル野谷地鼠ハ尾（此地方ノ者）少シク短ク脊[背]部ノ赤栗色ノ部極限セラ狭[狭]キ様思ハル。

{23ird july 1926}

本日タライカ方面ニ向フ。行ク諸般ノ要[用]意オシテ出發セシハ午前八時過キナリシ。行ク事ニ里ニシテ海岸ノ岩涯ノ下方ハ石ノ在ル処ニ海苔沢山附着シ在リシ故甚タ好マシク昌ノ来着オ待テ二人ニテ約壺貫五百匆程オ壺時モセヌ内ニ採リ重キモ我慢シテ漸ク野頃ニ着セシハ午後四時半。渡船場ニテ昌オ待合セテ河向フニ駆通処在ル者ト思ヘシ故河オ越テ四五町程来リシニボンヤリ昌ノ胃[胃]ク河畔ノ一軒家ガ駆通所ナリシ由初メテ知り困リ果タルモ今更致シ方無キ故痛ム足オ引摺乍ラ更ニ三里程ナル元ノ駆通オ指シテ急キ漸ク八時頃数本ノ河オ渡リテ来着シテ聞ケバ今ハ駆通ハ無シトノ事ニテ落胆大方ナラス。致シ方無ケレバ今夜ハ此ノ第拾号漁舎ニ宿泊オ頼ミ彼ノ海苔ハ是ヨリ七里モ更ニ運ぶノ愚オ思ヘ十号漁舎ノ人々二分与ス。寐ニ就キシハ十時頃ナリシ。

七月廿四日

前二時過既ニ炊事場ニテ人々ノニ[騒]ク音ニ眼オ醒[醒]シ起出タルハ午三時。食後出發セシハ六時半ナリシ。途中一里程ニテ尾黒シギ、及アジサシ、賊盜鴉及各種ノシキ類オ見ル。鴨ハ種々居リタルモ此ハ三里先ノ拾参号ニ宿リ能ハヌ時ハ十七号迄行カザル可カラズ故ニ鳥処ノ話シニ非スト思ヘ進行オ続

{火災!!! 火事!!!}

ヶ前拾時頃漸ク十三号ニ着シ訳オ話シテ宿オ乞ヘハ番屋ノ頭テ在ル人快諾シ茲ニ午飯オ新ラシクシテ□□[地名?]ヘ出掛縞青地ノ卵オ得尾黒シキ及アジサシオ得。明日更ニ鴨ノ雛及卵オ探索スル心算ナリ。昨日来ノ足痛及披[疲]勞モ甚ケレハ二時頃番屋ニ帰り六時ニハ九ヶノ標本オ製作シ終リ又幸ニモ此頃ハ天候良好ナル故毎日出獵シ得ラレテ茲ニ標本番号ハ第六百七拾番迄進行セリ。渡ル世間ニ鬼ハ無シト実ニ昨夜ノ宿ニ困シタリシモ今ハ全ク心易ナレリ。

午後七時半頃炊事場ヨリ女中ノ呼声ニ行キ見レバ正ニ烟筒ニ（屋根ノ烟出）火ノ燃附キテ下ヨリ立昇ル火風ニ勢才加ヘツ、屋根ノ草ニ燃ヘ附ントナシ居レリ。余輩ハ直ニ漁夫等呼ビ屋根ニ昇ラシメタルニ彼等三人程直ニ烟筒ノ胴即チ桶オニ踏附ケタルニバラバラニ破レ屋根等ニ燃ヘ附キタル者オ一人ハ屋根ノ下方ニ投シタルニ途中ニ止リ折柄ノ小風ニ吹キ立ラシ広ガリ如何トモスル能ハズ。余ハ始メヨリ濡^ツ庭オ以テ烟出し口オ閉塞ス可キ様大声注意シ居リシモ遂ニ急場ノ事トテ氣モ転倒^ツし居ル事トナル故斯クノ如キ取返シノ附カザル事トナレリ。火ハ益々（グン）ニ広カリ行キ今ハ家^ツ屋根ノ下方ヨリ明カニ見ルオ得ルニ至リ最早ヤ消防ノ不可能ナルオ知リシ故余ハ大概オシテ我ガ手荷物オ先ヅ出サシム。然シ二三オ出し亦此家ノ道具等オ出し与ヘ居リシニ自分ノ免状及金員ノ

{樺太東海岸十三号 各 十号 河村 順鹿角}

入り居ル上着衣ノ猶室ノ釘ニ掛ケ置シオ思ヘ出シタル故飛ビ込^ツミ様剥製品ト共ニ出シタリ。其他必要ナル脚伴及高丈等追出シタルモ石鹼箱オ忘レタリ。斯クシテ漁夫等モ自分ノ手荷衣類等オ出シタルモ中ニハ過半焼キタル人モ在リ番屋ノ船頭ハ多少物品オ焼キタルモ大抵^ツハ出シタリ。下火トナリテ休息セシハ十一時頃ニテ昨日来非常ニ勞レタル処ヘ本夜亦火災^ツニテ余ハ睡眠不足ニテ特ニ此日ハ勞レオ覚ユ。倉庫ノ中ニ一睡セシノミ。

七月廿五日

午前四時起出テ其処此処ト運動セシモ此時番屋ノ炊事場ハ未ダ出来ズ。六時過キニ漸ク飯オ炊キ始メ余等ノ食事オ取りシ時ハ七時半過キナリ。混^ツニ^ツ雜^ツ中ニ滞在ハ無論出来得可クモ非ス。然リトテ、十七号番屋迄行ク事ハ採集ノ都合上不可能ニテ茲ニ意オ決シ一先づ野頃ニ帰ル事トシ昼飯オモ持參セズ出發ス。此日ハ特ニ霧雨甚シク遠望不自在ニテ各種ノ鳥オ見ルオ得ス。尾黒シギモ打度ケレトモ他日ニ得ラル可キオ思ヘ十号迄来リ飯事オナシタリ。粗末極マル食事乍ラ二人壹円五十錢ナリ。途中眉白アシサシ五羽オ得テ日没近ク野頃渡船場オ越テ駆通、古木鉄太郎方ニ宿ル。此家ハ銃砲火薬免許商人ニテ、妻女ハ猟好キニテ廿四番オ毎日負ヘ半里程ノ自家^ツ營ノ漁場ニ行交

{ライ鳥 啄木鳥及大ライ鳥ニ就テ}

ヘノ旁ラ遠近オ問ハズ各種ノ鳥ニ發砲し居ル事々々ニ元氣ノ人ナリ。特ニ白フクロ及順鹿オ飼養シ居レリ。梟ハ頗ル大ナル者テ白地ニ黒褐色ノ^ツ斑^ツ点入り在リテ西比利フクロオ思ハシム。

順鹿ニ就テハ昨年始メテ極メテ小形ナル順鹿ノ一群オ土人等発見シタル由ニテ此種ハ且テ此附近ニ棲存スル種類ニ比シ約半分位ノ大サオ有シ角振りハ約似タルモ小形ナル由ニテ未タ且テ此ノ地方ニ捕獲サレシ事無キ種類ナリシ由ニテ三頭程附近ノ^ツギリヤーク^ツ人ニ依テ銃獲サレシ由ニテ現ニ皮ハ此ノ古木鉄太郎ト云フ人所有セル由ナリ。冬季ニ至レバ各種ノフクロ海岸近ク来リ亦啄木類ハ^ツ熊ケ^ツラ^ツ大赤ケ^ツラ^ツ及^ツ北赤ケ^ツラ^ツ三指ケ^ツラ^ツ等モ確カニ見ル由聞得タリ。

大ライ鳥ハ野頃河ヨリ西北方ニ里（九号）ノ奥数里ノ^ツ匍松地^ツ帯^ツニ多数ニ集リ来リ由聞及ビ又九月頃ハ^ツ度^ツ此ノ^ツ匍松ノ^ツ結実期^ツナル故松ノ実オ食ニ来ル由ニテ目下ハ遠ク深山ノ^ツ匍松ノ^ツ下ニ多分産卵育雛中ナラント土人等ノ云フ処ナリ。ライ鳥ハ多数ニ冬季ニナレバ七号野頃河ヨリ北西二十町、ニシテツンドラ等北方ニ向ヘ数里ニ長ク連リテ一望境オ見能ハサル位ノ処在リテ茲ニ種々ノ果実入りテ彼等ノ食スルニ^ツ適^ツス春季モ再ビ彼等ノ食糧庫タリ。余ハ今猶ホ多少ナリト此平坦ノ原野ニ見ラル可キオ思ヘ七月廿七日大

{西比利梟ノ体格 蝙蝠}

梟オ伴ヘ脚オ没スル程□クボガボカト抜カル原野オ北ニ向テ^ツ跋^ツ涉^ツし始メ行ク事三時ニシテ猶前方境オ見ズ。此間落葉松林細ク立テ縞ノ如キ形オナシテ在ズ。然シ余リ乾燥地帯ニ非ルオ思ヘ目今此附近ニハ白ライ鳥ハ棲ザル者ト決定シテ十一時半^ツ昼飯^ツオ契^ツ喫^ツシテ引返し松林オ縫テ東南方ニ出テ野頃河ノ西ノ方ノ一^ツ枝^ツ流ニ出テ海岸ニ出テ宿ニ帰ル。

西比利^ツフクロノ皮ヨリ測定スル体格左ノ如。

Wi^ツ壹尺五寸 TL^ツ八寸參分 F^ツ壹寸八分 B^ツ壹寸五分
全身白色地ニ●褐色ニ^ツ斑^ツ散在ス。ニ^ツ斑^ツハ^ツ腹^ツ部ニ於テハ褐色横ニ^ツ斑^ツ密在し、翼ハ大形ノニ^ツ斑^ツ在リテ、尾ハ外則^ツ側^ツノ者ハ外辨ニニ^ツ斑^ツ在リテ中央ハ六七条ノ横ニ^ツ斑^ツ在リテ^ツ背^ツ部ハ横ニ^ツ斑^ツ細カニシテ密ナリ。嘴ハ七分以上モ白毛ニテ覆ハル。跗蹠モ亦白羽毛オ蒙リテ爪ハ鋭シ。

野頃渡船場附近ニ夏季飛翔スル蝙蝠ハ多キ由ニテ昨夜余等ハ注意シタリシテ遂ニ得ザリシ。夕方八時頃極テ小形ノ蝙蝠ニ羽程飛翔し始ム。余ハ網オ以テ打落シタルモ遂ニ獲サリジ恨事ナリキ。

七月廿八日

本日東方ノ松林オ獵ス。鎌羽一羽オ得タル外小柄及日柄ノ幼鳥ラシキ者オ得タリ。午後八余輩数日以前ヨリ^ツ疾^ツ病^ツニテ困リ居リシ故休息手当オスル事トシタリ。此日

モ蚊群甚シク処々ニ休息シテ烟ニ抛テ彼等オ防ク外ナカリシ。牛袋及蚊頭巾夏季ハ是必要トス。

樺太元泊郡東知取市字千〇町二丁目拾五番地

〇谷〇〇〇氏ヨリ通信在リ。新聞方面ニハ鶴三羽オ見ケシ由果シテ何種ナリシヤ〇シ。

七月廿九日

本日昌オ出獵セシメシモ一鳥オ見ズトテ空シク戻リタリ。

七月卅日

本日朝パン焼オナシテ八時出発ス。風波甚シク銃ハ錆ル事甚シク困リ果テタリ。途中五号ノ漁舎飛沢良太氏方ニ茶オ飲ミ休息ス。其ヨリ岩燕ノ巢オ●採ル可ク丸太オ立掛ケテ見シニ生後四五日位ノ者モ在リ。亦最モ低キニケノ巢ハ未タ営造中ニテ産卵シ居ラス。能戸村二近キ処ハ遂ニ途中長カリシ為メ忘レテ発見スル能ハザリシ。午後雨降りテ困却セリ。三時廿分散江ニ着セシニ函館ヨリ小包ニケ到着シ居リタリ。

七月卅一日

多来加及野頃ニ採集セシ標本ノ手当オ

{大モズノ幼鳥ニ就テ及キジ鳩}

ナシタリ。

八月一日

本日ハ兼テ採集シ置キタル鳥卵オ発送ス可ク其々箱ニ納メテ荷造シタリ。本日大モズオ得タリ。No.689♀ナリ。翼ニ[斑]ノ初列ノミナルハ確ニ♀ナリ。

八月二日 八月二日

降雨甚シク出獵シ兼タリ。午後出獵セシメシモ一鳥オ獲スシテ戻リヌ。

八月三日

三里程ノ西北方ニ出掛ケシモ射撃セシケーマフリハ空シク潮ニ沖ニ押流サル。途中ノ燕(岩)ノ巢ハ尚早ニテ得ス。帰路、キジ鳩ニ羽オ得タリ。是ハ内地産ノ者ト大約同様ノ体格ニテ先ニ西海岸名寄地方ニ獲タル数羽ハ皆極メテ大形ノ者ナリシ。然シテ本年度ノ幼鳥ハ既ニ母鳥ヨリ返テ大形ニ思ハル、位發育シ居リタルモ頭部ノ鹿ノ子ハ未タ現ハレス褐灰色ナリ。從テ翼及其他ノ羽縁ハ赤栗色オ帯ヒ居リタリ。

八月四日

本日モ降雨ニテ出獵シ難ク種々ノ仕度をナス。鳥類標本ノ荷造リオナセリ。

{船越行}

八月五日

本日五ケノ小包オ出ス。即チ毛皮ハ自家、小林氏ヘ北海道産ノ卵及山階家ヘハ鳥類ニ箱No.8及No.9及卵壹個ナリ。料金ハ全部ニテ四円二十五銭。本夜安保氏及 氏ト共々白樺木ノ小豆モク及立木ノモク等ノ事ニ就キ種々相談ス。

八月六日

函館新川宅ニ向ケ為替三十円送附シテ化粧品ノ送附方オ依頼ス。及カンピノモクノ件ニ就キ申し送りタリ。書留便ナリ。午後八天気ナリシ故出獵ス。

八月八日

本日北知床半嶋ノ中央船越ヨリ少シク先ノ仿子山ニ趣[赴]キ海岸ノ涯下ニ野営ス。同行昌ノ外二人。即チ太キハ尺位ノ丸太ヨリ五六寸位迄ノ者オ立掛テ小屋トナシ夜間ハ沢山ノ木材オ集メテ燃焼シ烟ノ下方ニ居オ占メシ故流石ノ蚊郡[群]モ来ラズ。夜明ケ近ク他ノ二人交互ニ起出テ寒さニ耐ヘズシテ盛ニ燃セシ故煙カリシモ割合ニ温カナリシ。北ヨ往路ハ四人共乾[干]潮オ利用シ海面ノ河口近クノ浅瀬オ渡渉シタリ。行ク行ク。

{鴨類ノ渡来ニ就テ}

シキ類ノ渡来ニ就テ注意セシニ漸ク此頃ニ到テ中尺相当ニ来リ海又浅ニ芝草原ニ群居シアイグロ千鳥ハ少シク見ヘ始メタリ。尤テ早キハ矢張りトウネンニテ最モ多カリシ。多シ トウネンハ此頃ヨリ栗色ノ部分ハ変リ初ム。

ソリ嘴シキ 八月十日前ハ少シ其後甚多シ。

中尺シキ 五羽十羽ト群居リ方々ニ見ヘ八月十日ニハ数十ノ郡[群]オ見ル。

タカブシキ ハ此頃少シ然シ羽色ハ褐色トナリ。其羽色部ハ目ニ立ニ白ク見ユ。

胸黒 ハ五羽七羽ノ郡[群]オ見シモ未タ少シ。

シヤウドウ燕ハ船越ノ少ク手前ナル海岸ノ涯上ニ巢オ造リ居リ既ニ雛十日位ニナリシ者モ在リ。八月十三日四果ノ卵オ得タリ。

雨燕ハ少シ。

鷹ハ時々見受シモ甚タ希ニテ白隼ラシキ者オ一二度見タルモ遂ニ射呈[程]内ニ入ラズ。

ハイタカハ希ナルモ平原ニハ時々見ラル。

ミサゴハ時々散江ノ江辺ニ見受ラル。

{散江方面ノ鳥ノ観測}

黄セキレ 少キモ北知床岬迄見ラル。

瓜長黄セキレ 尤モ多ク至ル処ニ多シ。既ニ全部巢立セリ。

白セキレハ甚タ多ク五月ヨリ八月月始メ迄ハ産卵ス。期尤モ長シ。余ノ最後ニ得シハ八月十日ナリシ。

赤腹[腹]ハ少シ。然シ此方面ニテ育雛ス。

夷蟲食ハ最モ多クシテ草間小藪ノ在ル処至ル処ノ海岸近く又ハ平原ニ見ラル。

センニウ (シマ) 至ル処ノ草間ニ見ラレ既ニ雛ハ飛翔充分トナリ多数ナリ。

小柄ハ此方面ノ者ハ嘴少シク大形ニ見ユ。少シ。

熊[熊]ケラハ居ル筈ナルモ不幸ニシテ出会セズ。然シ雪中ニ啄木セシ跡ハ多数ナリ。

三指ゲラハ少キモ居レリ。七月中ニ相当ノ大サニテ親ト共々啄木シ居レル者オ得タリ。

赤尾カケスハ漸ク見ユルニ至レリ。思フニ深山ヨリ蕃[繁]殖オ了ヘテ出来シ者カト思ハル。

樺太深山カケスハ此ノ方面ニモ居ル筈ナルモ誠ニ少ク余ハ一回実見セルノミナリ。

菊戴 少キモ此ノ方面ニハ産卵育雛ス。

樺太蟲食 少シ。然シ産卵育雛ス。

樺太ミソサバエ 少シ。産卵育雛ス。

キジ鳩ハ産卵育雛ス。少シ。畑無キ故ナリ。

樺太大モズハ六月以来見サリシモ八月一日始テ一羽ノ雛オ見タリ。本年度渡来ノ南航ノ始メテノ者カ。

鎌羽雷鳥ハ少キモ各地ノ森林中ノ夷松林ニ於テ見ラル。

八月ハ其ノ尾羽脱落中ナリ。

夷山鳥ハ目下甚タ少キモ冬季ニハ多シ。

樺太雷鳥 目下育雛中ナルオ以テ如何ナル処ニ彼等オ捕獲ス可キヤニ苦シメリ。多分ハ落葉松林ノ奥深く潜ミ居ルカ又ハ高山ノ匍松帯ニテ育雛シ居ルカ。秋冬ノ候広野ニ群来シテ遠方ヨリ飛逸ス。雪中ハ大抵[抵]原野ノ広処ニ雪穴オ堀リ眠眠リ同一ノ穴オ再用セズ。多分ハ獸数[類?]ノ害オ予防スルニ在ルカ

大ライテウ 此種ハ既ニ皇領ニ於テ[テ]ハ既ニ絶滅ニ趣[赴]キツ、在リテ冬秋ノ候希ニ野頃河沿ニ匍松地帯ニ於テ見ラル。

大膳千鳥 少シ。余ハ八日一羽オ見シノミ。

磯シキ 多カラズ。

ヒレ足シキ (赤襟) 春季渡来ノ候大群オナシ海岸近くニ見ラル、由ナルモ余ハ二羽オ得シノミナリ。

叱シギ 八月八日ハ余ハ叱シギノ一群ニ二射シテ六羽オ得タリ。其後ハ一向ニ出会セサリシ。

{散江湖オ渡渉}

銀山マシコハ秋季渡来ノ節早[相]当ニ見ラル由ナルモ余ハ度々遠征セシモ余リ見ス。全部ニテ見シハ六回ナリ。岬ニテ二羽、船越ノ先方コークニテ四羽オ見シノミ。匍松地帯ナラデハ居ラズ。

夷蟲食ノ灰色ノ者オ得タリ。思フニ此種ハ羽色一定ナラズ。濃淡ノ差甚シキ種ナリ。

八月九日

ボース山ノ後方ナル円頓ノ手前ノ匍松帯オ抜[跋]渉セルモ遂ニライ鳥ニ出会セズ。

大ナル湖オ見テ鴨オ射落タルモ風反対ノ方面ニ吹キテ遂ニ得ズシテ帰レリ。白樺ノ吉ハ遂ニ失望オ以テ終レリ。

八月十日

一先づ一同ト共ニ散江ニ帰ル可ク午後二時頃散江湖ニ至リシニ折悪シク南風吹テ激浪海岸オ洗ヘ渡ルニ由無ク然リトテ渡ラサルオ得ズ。遂ニ意オ決シテ裸トナリ一同首丈ノ深サ在ルニモ不開荷オ高ケ揚テ漸ク数回ニ運ビテ兎ニ角渡渉セリ。

{大蟲食ノ翼ニ就キ}

草ノ床ニ二夜オ眠リ冷ヘ込ミタル者カ甚シク身体ノ具合悪シク休養ノ已ム無キニ至レリ。

八月十三日

再ビ船越方面ニ出勤セシ者ト大ナル結[給]飯多数オ負テ前四時出発シテ散江湖ニ至リシニ水深クシテ渡ルオ得ス。漸ク方々ヨリ木オ集テニ[筏]オ造リテ渡ルニ時間半ハ是カ為ニ行動上ニ遲帯オ生シコーク迄進行出来ズ。途中ヨリ引返シテ帰レリ。

八月十四日

昌オ出シタルモ毎時何者オモ見サル由申来ル。彼ハ誠ニ氣ノ遲鈍ナル者故ナラシ。

八月十四十五十六日

赤腹[腹]ノ腸ノ病ニテ出獵セズ。函館ヘ打電ス。銃ニ連出荷セシヤ否ヤト。

八月拾七日

本日病快方ニ向ヘタル故ハ八時頃出獵ス。兼テ山階家ヨリ申越サレシspNo85 1/12 大蟲食オ見タルモ一羽オ得シノミ。其ヨリ森林中オ彼方此方ト歩キ二時頃帰宅シ取り調

ベシニ此大蟲食ハ翼ノ長短ノ差ハ

{夷蟲食ノ翼ノ差}

是迄且テ発表サレ在リシ者トハ全ク異リ居ルオ知レリ。亦夷蟲食ノ翼羽ノ差モ全ク異リ居レリ。色彩モ春季ノ候トハ多少異リ居ル事ナリ。以上ノ事ハ採集番号帖ニ明記シ在リ。

八月廿日

先ニ打電請求セシニ連ノ返電来ラズ。今朝更ニ二連才出セシヤ、金入ルナラ送ル直ニ返事ス可キ様申送ル。此旧盆十三日ニ相当[ス]ルオ以テ休ミ弾込オナス。

八月廿三日

先ニ函館宅ヨリ折返シ打電シ銃発送ノ旨報知セルモ来ラス。第二回目ニ漸ク一通十四日ニ発送ノ旨申来ル。局ノ取扱者不都合ナル者在ルラシ。余ハ東海岸オ東ニ行キテ各種ノ鳥類オ見ル可ク諸般ノ仕度オナシ小包等オ出シタリ。植苗ニ向ケ海苔約一貫オ送り東京ヘ小包オ発送ス。余ハ今回ノ行路オ散江湖オ字廻[迂回]シテ進行ス可ク決定セシニ他ノ者ハ三号ヨリ山越スレバ一日行路ニハ早キ由申シ居リタリ。

{床呂湖畔行}

八月廿四日人夫二人及大槻ト余ト都合四人ニテ食品弾薬及衣類等オ負ヘ三号ヨリ山越ヘス可ク決シテ前七時半出發ス。往路草深シクシテ胸ノ辺迄掛リ進行一町ニシテ皆滾[濡]ル処トナル。交代ニテ先頭ニ立テ行ク河ニ沿テ三時間ニテ夷雷鳥ノ雛ニ出会ス。其三羽オ得タリ。林ハ何処迄モ連リテ行路オ塞ギ行進ニ頗ル遅延シ一時間半里程ナル可ク思ハル。午後三時頃絶頂ラシキ山頂ニ至リシニ匍松一面ニ茂リテ進行シ難ク茲オ切り小サキ者ハ上オ越テ日没近キシモ容易ニ海岸ニ出ル不能。即チ林間ノ小河ニ沿テ立木オ利用シテ松ノ葉ノ下陰ニ宿リ火オ燃キテ蚊群オ防ギツ、翌日ハ廿五日ハ朝来ノ濃霧ニテ進行亦々遅レ勝トナリ。漸ク海岸ニ至リシニ断涯ノ絶壁上ニ出テ延々トシテ遠ク連リ下降シ得可カラズ。即チ荷オ降シテ先ツ下降場処オ探検ス。漸クニシテ熊ノ昇降セシ跡オ見附テ是ニ依テ漸クニ下降シテ海岸ニ降りテ同一先安心セリ。行路岩ニ[礁]多キ故海彪ノ干潮ニ岩上ニ眠ル者多ク余ハ二百間位ヨリ一射シテトドオ列[倒]ス。続テアザラシ十一頭オ打シモ一頭丈ケオ採ルオ得テ他ハ水中ニ沈下シ去リ惜シキモ後日拾ヘ上ル考ニテ行ク程ニ打ツ程ニ拾参頭オ射止ム。散弾七発実弾八十発オ射タリ。此日国境オ越テオハノ石油壙ニ趣[赴]ク。六人一行ノ者後ヨリ来ルニ会ヘ共ニ海岸ノ砂地ニ草ノ小屋オ造リテ宿ル。

八月廿六日

往路ニ射止メテ陸ニ引揚ケ置キタル海彪オ剥皮ノ為メニ遣シ余等ハ沼ノ在ル処オ探検ス可ク趣[赴]ク。往復共ニ多数ノアザラシオ見タリ。即チ図ノ如ク頗ル漁業ニ有利ノ場処ニテ昔日ハ(トツコロナイ)ト称セシ湖ナリ。



此日ヨリ北風吹キシ故湖水内面ニ近キ処ニ居オ点ム可ク引返し午後二若者等オ同伴シテ小屋健[建]オシテ当分茲ニテ採集セシ者ト思ヘ急キ引返シテ午後六時頃ニ戻リテ初メテ彼等ニ会スルオ得タリ。直ニ一式ノ荷オ分担シテ湖畔ニ趣[赴]キシニ五時半頃ナリケレバ思フ様ニ小屋材オ得難ク唯風オ防クノミノ小屋オ造リテ暗キ処ニ夕食オ喫シテ其盡[儘]眠レリ。

{樺太三指ゲラ 三指シギ}

八月廿七日

余ト老人ト共々湖ノ水原ニ趣[赴]キシニ行キ曲リスル互ニ巨大ナル湖ナルオ知り茲ニ注キ入ル水原ハ遠ク穀具、野頃方面ヨリノ水分レテ入ルオ知レリ。山ハ奥ニテモ低ク何様冬期ノ積雪ノ更ニハシトニテ滑走スレバ半日行程ノ越場ノ由左モ在ル可シ。湖中ニハ多数ノ鱒入り居リヲ小河ニ昇リ居リ。熊ハ夜間食スル為メニ捕ヘ残、腐敗シテ臭気甚シキ処モ在リキ。

八月廿八日

余ハ病氣ノ為ニ出獵セズ。安場オノミ海岸ニ遣ス。彼ハ小形アサラシ一頭オ持帰レリ。此日風強ク海浪甚高カリシ。

八月廿九日

安場南方ノ沿岸ニ行カシム。小形アサラシ浪ニ打上ケラレシ者一頭剥皮シテ持帰レリ。余ハ若者一人才連レテ熊オ打ツ可ク趣[赴]キシテ遂ニ彼等ノ姿オ見ス。樺太三指

ケラニ羽オ射タルモ一羽ヨリ採レス。白額木回り一羽オ見タリ。即チ獲タリ。眉ハ白色額ハ巾二分位モ白色ニテ服〔腹〕部ハ白色ナリ。外ナル者二頭ノアザラシオ得八月卅日ハ大風ニテ体〔休〕ム。

八月卅日雨天の爲メ此日出発ス可カリし者オ

{散江湖ノ脊〔背〕ニ出ツ}

遅延し先日出発セシ老人ハ戻リ来リ。食糧ノ残ル者僅ニ米二拵ニ依テ二日間ノ道中ニ充ツ可ク余リニ少キニハ困却セリ。

九月朔日

前四時起出テ諸般ノ物オ処理シテ出発ス可ク小屋オ出タルハ七時オ過タリ。海岸ハ浪荒クシテ砂傾斜急ニシテ歩行困難セリ。正午頃ニ至リ僅カニ割当タル五勺位ノ飯オ喫シテ魚肉オ食セシモ服〔腹〕ノ具合悪シキ処ヘ数日前ヨリ夜間草ノ上ニテゴロ臥シ居リシ事トテ寒冷オ感シテ下痢オ起シ居リ。身体ダルク歩行頗ル困難オ思ヘシモ勇オ鼓シテ進ム。日没近クニ至ルモ三人ノ者来ラス。予定ノ船越ニ達スル不能ハザルオ思ヘ寧口河辺ノ木ノ沢山在ル処ニ小屋オ造リテ此夜オ過ス可ク考ヘ火オ盛ニ燃シタル処ヘ老人来リ。漸ク二人ニテ小屋（実ハ穴ニ等シ）オ造風丈ケハ防ニ足レリ。夕食ハ米一合●位ツ、割当テ食後直ニ眠リシモ夜十時半ト云フニ目醒〔醒〕メシニ火消ヘントスルニ近処ヨリ沢山ノ木材オ運ビ来リテ盛ニ大丸太ノ火オ造リテ眠ル。寒サ強カリシ。

九月二日

此日前五時ニ起出テ食事ハカユオ煮テ喫シ出発ス。行ク事里ニシテ山道在リテ散江湖ノ脊〔背〕後ニ出ル。近道ラシク思ハレシ故一同勇オ鼓シテ山ニ昇リテ野オ越テ林間ニ入り漸ク湖畔ニ出シ八十時過ナリシ。此間（フレップ）沢山ニ熟シ居リ各人皆期ズシテ此実オ食シ乍ラ行進ス。散江湖ノ入口近クニ至リテ残米ニ合有リシオカユニ煮テ食シ午後三時頃散江湖ノ通五十嵐留吉方ニ歸レリ。此間十日即チ往覆〔復〕四日間オ要シ残りノ六日中雨ニテ一日大風二日間及淋雨二日間ニテ僅ニ一日丈ケ晴天在リシノミナリ。費用ノミオ要シ獲物ハ少ク且つ遠路ハ夜間ノ毛布サイ携帯自由ナラズ。食糧ハ四人ニテ白米壺斗三拵及塩味噌等ノ他採集器具オ携帯セバ他ノ銃器及彈藥ハ頗ル重クシテ思フ様ニ携行シ能ハス。実ニ無人ノ境オ探検スルハ容易ノ業ニ非ナリ。

床呂ノ湖ノ鱒

ハ頗ル沢山ニ湖ニ入込ミ居リテ口〔遊〕行スルオ見受ラル。

小河ニハ無論無数ニ溯上シテ浅処ニ産卵シ居リ無手ニテ握リテ捕フルオ得可ク。余等ノ帶〔帶〕在中ハ専ラ副食物ニ当タリ。

此湖ハ春季ニハ海岸ノ堤防破損シテ湖水海ニ注下セシ時ニ溯上セシ者ナル可ク。目今ハ大風浪ノ節ニ湖口オ越テ海波湖水ニ混入スルオ見タリ。

{床呂方面実見鳥類}

北日柄 少キモ其日ノ回りニ依リテハ相当ニ群居スルオ見ラル。考フニ地方ヘ群居移転ノ期ニ入レル？

北小柄 大森林連綿ト続キ居ルニモ不係頗ル少シ。

樺太ミソサバエ 少キモ時々是オ林中深キ沢地等ニ見ラル。

Sitta Euroia albifrons Tacyanosky

白額木回 spNo.133

翼ハ二枚分ニ比シ短シ/木回ノ

散江方面並ニ此方面ニテ此一羽オ見シノミ。No.744♂ナリ眉ニ〔斑〕及前額ハ白色ニテ眉ニ〔斑〕ハ長シ。Wiニ寸四分 TL壺寸四分 Feet五分半 B五分半 gl四寸五分ニテ六匁位、服〔腹〕面ハ白色下尾筒及腮ハ栗色。

北小啄木 甚タ少クシテ八月廿五日深林中ニ二羽居リシオ聞キシモ遂ニ逸セルハ惜シカリシ。

樺太三指啄木鳥 森林深キ枯木ノ多キ処ニ見ラルハモ少シ。即チ本種ハ翼長ノ22、3mmノ間ニ在リ。其他胸部ノニ〔斑〕点モ細少ナリ。

熊ゲラ 冬季ニ渡来スルナル可ク頗ル大ナル松皮オ啄剥ス。余ハ此地方旅行中且テ実見セシ事無シ。

大鷲 二羽一回飛翔シ居ルオ湖畔ニテ見タリ。

隼 多少シ唯一回出会シ射撃セシモ逸セルニ実ニ惜シ。

白隼ナルヤ否ヤハ不明ナリ。

ミサゴ 時々是オ見受ク。少シ。

嘴細鳥 少キモ海岸ニハ時々是オ見ル。

ニ〔斑〕ガラス 甚タ多シ。殊ニ匍松地帯ニハ多シ。

赤尾カケス 少シ。

白セキレ 多シ。

黄セキレ 少シ。

爪長黄セキレ 多甚シ。

ヒンズエ 多シ。

ルリヒタキ 多シ。

シマコマ?? 一回見〔目〕撃セリ。

野ヒタキ 多カラズ。

シマセンニウ 多シ。

菊戴 多カラズ。

真鴨 目下多カラザルモ湖ハ見ラル。

ヨシ鴨 多シ。

銀黒羽白 多シ。

アイサ 多シ。

鶺鴒 海岸線ニハ多シ。

シノリ鴨 甚多ク数百ノ群海岸ニ上陸し居リテ人ノ接近スルオ見レバ海ニ入ル。

ケーマフリ 多カラズ。

黄足シキ (米利堅) 多シ。

トウネン 多シ。

キヨジヨシキ 少シ。

目大千鳥 少シ。

雨燕 多シ。

岩燕 多シ。

穴鳥? 一二回空高く非常ノ速力ニテ飛翔スルオ見ル。

黒色小形者ナリ。

脊[背]黒カモメ 多シ。

三指カモメ 多シ

三指シキ 甚少シ唯一羽オ見是オ得タリ。

ヒバリシギ 希ナリ。

磯シギ 多カラス。

野ゴマ 少シ。

樺太夷雷鳥 少シ。

夷蟲食 多シ。

白フクロ 少シ。余ハ出発ノ前夜鳴声オ聞キ是オ得度ク思ヘシモ食糧キ為メ引揚グルノ已ム無キハ恨事ナリシ。

(湖畔ニハ居ル)

樺太蟲食 少シ。

ピロードキンクロ 海岸近く飛翔スルオ見タリ。

タカブシギ 少シ。

赤ウソ 少シ。

シマゴマ 希ナルモ二回目撃ス。

(九月壹日) (及八月卅日)

九月式日

本日帰宅シタルニ東京山階家ヨリ標本脂肪多クシテ浸出し更ニ剥製シ直サレバ困難ノ由申来ル。夏季見舞トシテ殊ニ珍味沢山小包包三個ニテ到着シタリ。

山階家暑中見舞品

(米) アスパラガス角大カン 一 (二斤カン)

米国ビワ大 一 布陸産パインアップル 一

味附海苔 二、大 コンビーフ 二

佃煮海苔 中 二 牛肉賽来者 二

鯛味噌大 二 ハム切肉硝子瓶入 一

筍二斤罐 一 ラツキヤウ漬二斤入瓶 一

青豆 一 米国産(丸太) Rost Beef 一

焼青花豆 一 ガーキン瓜瓶漬物 一

牛松茸味附 一 牛肉大和者 一

鎌倉ハム 一

及散弾七号九百六十刃入小包一ケ着ス。是ニテ58斤ナリ。

函館ヨリ小包三ケ着ス。

サンテチエンヌ 二番銃身ニ連廿七エンチ二号帯革一ケース廿四本、洗失三本物組、込替品銃袋ノ新品。

植苗ヨリハ契約書(小林)及岩手県ノ(ソバ)甘束程来リ居レリ。余ハ先ニ安保氏ニ譲ル可ク約束セシ元ノ二連銃

{船越行}

及ケース卅本及一本物(洗失一組)銃袋込替器一ケ皮ノ帯皮一本、散弾二百刃オ譲渡ス。

九月四日 郵便局長秋濱正氏来リ話シノ末余ノ自動五連十二番オ袋附金七十五円ニテ譲レリ。即日代金領収セリ。

九月五日 余ハ書類及其他整理ノ為メ出獵セズ。大槻オ遣シタリ。思フニ彼ハ何物をモ獲サル可ク思考ス。彼ハ金眼フクロ及白額木廻リ各壹羽オ持参ス。

九月六日 船越行

本日荷物オ始末シテ船越シ湖ニ向フ。豆シキ多数ニ見受ケタルモ変り物オ見ズ。往路、豆シキ(トウネン)及黄足(メリケン)最モ多数ニテ一群数百オ算スル者無数ニ群来ス中ニ三指シギポツポツト見エ余ハ三羽オ得タリ。正午過キ三時林中ニ宿ル。風吹き通ス草小屋オ造リ茲ニ居ル直ニ輕装シテ原野オ抜[跋]涉シ樺太ライ鳥オ尋索セシモ姿オ見ズ。青足シキ得タク此青足シギハ二種雛居シ居リテ区別容易ナラザリシモ其蹠ハ全ク異リ居レリ。即チ青足ハ半蹠ナルモ樺太青足ハ趾間両口蹠ナリ。然モ嘴{青足シギト樺太青足シギ}

ハ樺太青足ニ在リテハ口青録[緑]色ナル返シ青足シギハ堅クシテ石盤色ナルニ在リテ体格モ多少大ナリ。

(つづく)